

2019（令和元）年度

自己点検・評価報告書

沖縄キリスト教短期大学

基準Ⅰ. 建学の精神と教育の効果

建学の精神・教育理念、教育目的・目標、学習成果(Student Learning Outcomes)、教育課程及び教育プログラムの相互の関係について、「卒業認定・学位授与の方針」、「教育課程編成・実施の方針」、「入学者受入れの方針」の三つの方針を含めて明確に示す。学習成果を焦点とした教育課程及び教育プログラムを構築し、教育の実践においては量的・質的データを基にした学習成果の分析・評価を行い、恒常的かつ系統的な自己点検・評価に基づいて、教育研究活動の見直しを図る内部質保証の仕組みを確立し行っていることを明確に示す。

建学の精神は、短期大学の創設者・設置者の教育理念・理想を源にする大学経営の自主性を示すものであり、短期大学の教育目的・目標と学習成果を達成するための基礎となるものである。そのため短期大学はこれを明確にして学内外に示すとともに、学内において共有することが重要である。建学の精神は、教育基本法に基づいた公共性を有し、短期大学の継続的な発展を遂げるために自身の個性・特色として継承されるべきである。また、時代や社会の変化の中において社会のニーズと結び付いているか、定期的に点検することが求められる。短期大学は地域・社会の文化の担い手である。地域住民をはじめ地域・社会の公共機関や企業などから必要不可欠な存在として認知され、支持されるよう、地域・社会の幅広いニーズに応えその活性化を図る責務を果たさなければならない。

教育の効果は、短期大学の教育の質を保証するものでなければならない。特に私立短期大学においては、建学の精神から成る独自性及び自主性に基づく特色とともに、人材の養成の成果が社会全体に影響を及ぼすことに鑑み、公共性の高いものでなければならない。教育の効果を高めるためには、建学の精神と結び付いた教育目的・目標により定めた学習成果を獲得させるための、卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針(以下、三つの方針という)を一体的に策定し、また、学習成果を実際に学生が獲得したかについて点検・評価する査定(アセスメント)の手法を有し、その結果に基づき教育が効果的に行われているかを検証しなければならない。査定(アセスメント)は三つの方針の関係を見直し整備するためのPDCA サイクルを含む系統的なものである。短期大学は、自己点検・評価活動に基づいた教育研究活動の見直しを継続的に行う内部質保証が求められる。

<A.建学の精神>

短期大学は、学科・専攻課程の教育目的・目標、学習成果、教育課程及び教育プログラムの基礎となる建学の精神を学内外に示さなければならない。また、地域・社会に貢献することが求められる。

区分	留意点	(Do, Check) ①実施状況・②課題 実施の根拠(エビデンス)	[Act] 改善に向けての取り組み	検討する 委員会等の 名称
基準Ⅰ-A-1 建学の精神を確立している。	(1) 建学の精神は短期大学の教育理念・理想を明確に示している。	短期大学の教育目的は「キリスト教精神に基づいた学校教育を施し、人格の完成をめざし、社会に有用なる人材を育成することを目的とする。」としており、建学の精神はこれを明確に示している。 (根拠) 沖縄キリスト教短期大学学則第1条	継続して行う	宗教委員会
	(2) 建学の精神は教育基本法及び私立学校法に基づいた公共性を有している。	寄付行為第3条で「この法人は、教育基本法、学校教育法及び私立学校法に従い、キリスト教精神に基づく学校教育を行い、個人の人格形成に努め、社会に有為な人材を育成することを目的とする。」と定めており、それに基づき公共性を有している。 (根拠) 寄付行為	継続して行う	理事会
	(3) 建学の精神を学内外に表明している。	大学案内、ホームページ等に掲載している。 (根拠) 大学案内、HP	継続して行う	宗教委員会
	(4) 建学の精神を学内において共有している。	大学案内、ホームページ等に掲載しているほか、前期、後期にもたれる「キリスト教週間」等において建学の精神にそったプログラムを必ず持っている。また学生は、必修科目である「キリスト教学Ⅰ、Ⅱ」や選択必修科目の「キリスト教人間学」の中でさらに深く建学の精神を学んでいる。 (根拠) 大学案内、HP、宗教委員会議事録、シラバス	継続して行う	宗教委員会
	(5) 建学の精神を定期的に確認している。	月に一度の定期宗教委員会において建学の精神にそった企画の検討、確認をしている。また、毎年専任教職員を集めた宗教部主催の「建学の精神ワークショップ」において、建学の精神を学んでいる。 (根拠) 宗教委員会議事録	継続して行う	宗教委員会

基準Ⅰ-A-2 高等教育機関として地域・社会に貢献している。	(1) 地域・社会に向けた公開講座、生涯学習事業、正課授業の開放(リカレント教育を含む)等を実施している。	【教務】①科目等履修生を受け入れている。また、教員免許更新制に対応し、免許状更新講習を実施している②なし 【総務】①地域・社会に向けた公開講座を実施した。 ②募集しても定員に満たず、閉講となる場合がある。 【企画】①高大接続プログラムの一環として、教員が県内高等学校を訪れて、高校生を対象に、大学での「学ぶ喜び、面白さ」を伝える講座を実施。2019年度は6回実施している。 (根拠) 【教務】・沖縄キリスト教短期大学学則第35条、科目等履修生に関する細則、科目等履修生受付名簿、2019年度沖縄キリスト教学院免許状更新講習募集要項 【総務】公開講座募集要項、事業報告書 【企画】HP、広報・地域連携推進委員会議事録	【教、企】継続して行う。 【総務】ニーズの把握と広報について検討する。	【教務】教務委員会、短大教授会 【総務】公開講座委員会 【企画】広報・地域連携推進委員会
	(2) 地域・社会の地方公共団体、企業(等)、教育機関及び文化団体等と協定を締結するなど連携している。	①大学が所在する西原町との包括連携を結び、毎年意見交換会を実施し双方の課題解決に向けた取り組みを行っている。ほか、西原町教育委員会とは学校教育や理科教育支援事業についての覚書を交わしている。理科教育支援事業は2019年度で11年目を迎えており、西原町からも高評価をもらっている。 (根拠)西原町との包括連携協定書、覚書、広報・地域連携推進委員会議事録	継続して行う	広報・地域連携推進委員会
	(3) 教職員及び学生がボランティア活動等を通じて地域・社会に貢献している。	①サークルでボランティア活動を行っていたり、西原町主催のわくわくワークに毎年教職員、学生がボランティアとして参加している。また、1年に数回学内での献血活動に教職員、学生が参加している。 ②多くの教職員・学生の参加が望ましい (根拠)「課外活動届」、HP	新入生オリエンテーションなどのイベントを利用し強くアピールしていく	学生生活委員会 広報・地域連携推進委員会

<B 教育の効果>

教育の効果は、短期大学の教育の質を保証するものでなければならない。短期大学は、建学の精神に基づく教育目的・目標及び学習成果を明確にし、それに基づき三つの方針を一体的に策定し、学内外に示さなければならない。教育の効果を高めるために短期大学は、教育目的・目標に基づく人材養成が地域・社会の要請に応えているか定期的に点検しなければならない。三つの方針は、教育目的・目標、学習成果に基づき組織的議論を重ねた上で策定し、一貫性・整合性のあるものでなければならない。

区分	留意点	(Do, Check) ①実施状況・②課題 実施の根拠(エビデンス)	[Act] 改善に向けての取り組み	検討する 委員会等の 名称
基準Ⅰ-B-1 教育目的・目標を確立している。	(1) 学科・専攻課程の教育目的・目標を建学の精神に基づき確立している。	【保育科】①学則第4条の2に教育研究上の目的を定め、それに基づき学科会議やワークショップ等で定期的に教育目的・目標について検討を行っている。 ②なし 【英語科】学則第4条の2に教育研究上の目的を定め、それに基づき英語科FDや短大FDで定期的に検証している。 (根拠)【保育科】HP情報の公開、自己点検報告書、ワークショップ議事録、Student Handbook、大学案内、短大学則、学科会議議事録 【英語科】学生便覧、短大学則	【保育科】2022年度に再度検討を行う予定 【英語科】英語科FD・短大FDで話し合っている。2020年度に改善予定	学科会議
	(2) 学科・専攻課程の教育目的・目標を学内外に表明している。	【保育科】①学科で検討された教育目的・目標をHPや大学案内等で公表している。 ②なし 【英語科】①毎年学生便覧やホームページに載せて公表している②なし (根拠)【保育科】HP情報の公開、Student Handbook、大学案内。 【英語科】学生便覧、ホームページ、入学予定者オリエンテーション	継続して行う	
	(3) 学科・専攻課程の教育目的・目標に基づく人材養成が地域・社会の要請に応えているか定期的に点検している。(学習成果の点検については、基準Ⅱ-A-6)	【保育科】①県内の関係団体と連絡会を定期的に開催し意見交換を行い、人材育成について連携を取り、カリキュラムへと反映するよう学科会議等で検討・実施している。 ②なし 【英語科】キャリア支援課が行っている「卒業生に関するアンケート」結果から、企業が求める人材像と教育目的に乖離がないか学科会議等で検討している。 (根拠)【保育科】連絡会議事録、学科会議事録 【英語科】卒業生に関するアンケート2019	【英語科】キャリア支援課で行っている「卒業生に関するアンケート」を利用して、英語科のCPとDPの検証を英語科学科会議、キャリア支援委員会へ報告する。	【英語科】キャリア支援課と英語科学科会議、キャリア支援委員会

基準 I-B-2 学習成果 (Student Learning Outcomes) を定めている。	(1) 短期大学としての学習成果を建学の精神に基づき定めている。	①建学の精神を基に学習成果を定めている。 ②必要に応じて見直す。 (根拠) 学生便覧	各学科のDP、CP、学習成果の改訂に応じて、審議・見直しを行う	教学マネジメント委員会
	(2) 学科・専攻課程の学習成果を学科・専攻課程の教育目的・目標に基づき定めている。	【保育科】①学科のワークショップ、教学マネジメント委員会等で学習成果について定めている。 ②なし 【英語科】①毎年英語科FDや短大FD、教学マネジメント委員会で見直し、その内容を学生便覧やホームページに掲載している②なし (根拠) 【保育科】学科ワークショップ議事録、学科会議議事録、教学マネジメント委員会議事録 【英語科】教学マネジメント委員会規程、教学マネジメント委員会議事録	【保育科】2022年度に再度検討を行う予定 【英語科】継続して行う	教学マネジメント委員会、学科FD
	(3) 学習成果を学内外に表明している。	【保育科】①学習成果をHPで公表している。 ②なし 【英語科】①毎年学生便覧やホームページに掲載している②なし (根拠) 【保育科】HP情報の公開、Student Handbook、大学案内。 【英語科】学生便覧、ホームページ、大学案内	継続して行う	
	(4) 学習成果を学校教育法の短期大学の規定に照らして、定期的に点検している。	【保育科】①学科会議やワークショップ、教学マネジメント委員会等で学習成果について定めている。 短期大学の規定に照らし、2018年8月保育科ワークショップ、また2018年6月～2019年1月にかけて学科会議にて審議を重ね点検を行い、修正、決定している。 ②なし 【英語科】①実施していない②整える必要がある (根拠) 【保育科】学科ワークショップ議事録、学科会議議事録 【英語科】なし	【保育科】2022年度に再度検討を行う予定 【英語科】学校教育法第108条との整合性をとらえる必要がある。英語科FDで点検し、教学マネジメントへ報告する。	教学マネジメント委員会
基準 I-B-3 卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針(三つの方針)を一体的に策定し、公表している。	(1) 三つの方針を関連付けて一体的に定めている。	【保育科】①学科のワークショップ、教学マネジメント委員会等で三つの方針を定めている。 ②なし 【英語科】3つのポリシーは学科会議、英語科FD、短大FD、教学マネジメント委員会等で定めている②なし (根拠) 【保育科】教学マネジメント委員会議事録、学科ワークショップ議事録、学科会議議事録 【英語科】教学マネジメント委員会規程、教学マネジメント委員会議事録、学生便覧、HP	継続して行う	教学マネジメント委員会、学科FD
	(2) 三つの方針を組織的議論を重ねて策定している。	【保育科】①学科のワークショップ、教学マネジメント委員会等で検討・策定を行っている。 ②なし 【英語科】毎年英語科FDや短大FD、教学マネジメント委員会等で見直されている②なし (根拠) 【保育科】教学マネジメント委員会議事録、学科ワークショップ議事録、学科会議議事録 【英語科】教学マネジメント委員会規程、教学マネジメント委員会議事録、英語科会議、教授会、短大FD	継続して行う	教学マネジメント委員会、学科FD
	(3) 三つの方針を踏まえた教育活動を行っている。	①学科のワークショップ等で三つの方針をふまえたカリキュラム編成について検討を行い、教授会、教学マネジメント委員会で審議し、次年度カリキュラムへと反映させている。 (根拠) 教学マネジメント委員会議事録	継続して行う	教授会、教学マネジメント委員会、学科FD
	(4) 三つの方針を学内外に表明している。	【保育科】①三つの方針を学生便覧やHP等で公表している。 ②なし 【英語科】①毎年学生便覧やHP等で公表している②なし (根拠) 【保育科】HP情報の公開、Student Handbook、大学案内。 【英語科】学生便覧、ホームページ	継続して行う	

<C 内部質保証>

短期大学は教育の継続的な質の保証を図り、社会的に魅力ある短期大学であり続けるために、自己点検・評価に積極的に取り組み、それに基づき教育研究活動の見直しを継続的に行う内部質保証を機能させることが必要である。なお、理事長、学長など、大学の管理運営組織が自己点検・評価とそれに基づいた内部質保証に率先して関わり、ALOの任務を支援し、その体制を構築しなければならない。

自己点検・評価活動に際しては、次の四つの視点で進めることが重要である。①具体的活動を行っている当事者が責任者となる、②学習成果を焦点にする、③根拠に基づき誠実、公正、客観的に行う、④学内全体の対話を通じて改善方法を考え出す。なお、自己点検・評価活動に加え、独自の外部評価や相互評価を行うことも有益である。教育の質を保証するための査定(アセスメント)には、到達目標設定、事実の評価など、計画(資源配分を含む)、実行、検証、改善というPDCAサイクルを継続的に用いなければならない。

区分	留意点	(Do, Check) ①実施状況・②課題 実施の根拠(エビデンス)	[Act] 改善に向けての取り組み	検討する 委員会等の 名称
基準 I -C-1 自己点検・評価活動等の実施体制を確立し、内部質保証に取り組んでいる。	(1) 自己点検・評価のための規程及び組織を整備している。	①短期大学自己点検委員会規程を整備し、委員会を設置している。 ②なし (根拠) 自己点検委員会規程、議事録	継続して行う。	短大自己点検委員会
	(2) 日常的に自己点検・評価を行っている。	①毎年度、年度末に自己点検を行っている。 ②PDCAの明確化 (根拠) HP情報の公表、自己点検報告書	継続して行う。	短大自己点検委員会
	(3) 定期的に自己点検・評価報告書等を公表している。	①毎年度自己点検報告書を作成し、HPで公表している。 ②なし (根拠) HP情報の公表、自己点検報告書	継続して行う。	短大自己点検委員会
	(4) 自己点検・評価活動に全教職員が関与している。	①各部署(各種委員会)ごとに自己点検を行っており、全専任教職員が関与している。 ② (根拠) HP情報の公表、自己点検報告書	全教職員が評価基準を見られる(閲覧できる)仕組みを作り、理解を促す取り組みを行う。	短大自己点検委員会
	(5) 自己点検・評価活動に高等学校等の関係者の意見聴取を取り入れている。	①高等学校関係者からの意見聴取していない。 ②意見聴取が必要である。 (根拠) なし	2020年度には外部評価委員会を設置し、高等学校関係者を含めた意見聴取を9月末までに行う。	短大自己点検委員会
	(6) 自己点検・評価の結果を改革・改善に活用している。	毎年度各部署による目標や計画が立てられ、それに関する実績を委員会が検証し、出来ていない部分に関しては改善を促している (根拠) 自己点検・評価シート(HPへも掲載)	継続して行う。	自己点検委員会
基準 I -C-2 教育の質を保証している。	(1) 学習成果を焦点とする査定(アセスメント)の手法を有している。	【保育科】①学科会議等でアセスメントを行い、教学マネジメントで報告している。 ②学科内ワーキンググループでの、アセスメント手法の検討と改善が必要である。 【英語科】5つのアセスメントを用いて学習成果の検証を行っています。 ①満足度調査②授業評価アンケート③受講者数/閉講クラス④成績分布状況⑤TOEIC IPテスト。 ②なし (根拠) 【保育科】学科会議議事録、保育科2019年度アセスメント(学習成果検証)報告書 【英語科】英語科FD、短大FD、教学マネジメント委員会議事録、アセスメントポリシー	【保育科】・2020年度より、2019年度実習評価票を取り入れた外部評価の検討を行う ・学習成果検証の方法について検証する ・検証の結果出た課題をもとに次年度カリキュラムを検討する 【英語科】継続して行う。	学科会議 教学マネジメント委員会

<p>(2) 査定の手法を定期的に点検している。</p>	<p>【保育科】①初年度につき、点検はまだ行ってない。。 ②次年度以降、学科での、アセスメント手法や定期点検時期の検討が必要である。 【英語科】①(1)で述べた学習成果のアセスメントは5つの到達目標のデータを収集し、英語科FDにて検証され、その後短期大学FDでディスカッションし、教学マネジメント委員会で報告されている。②なし</p> <p>(根拠)【保育科】学科会議議事録、保育科2019年度アセスメント(学習成果検証)報告書、教学マネジメント委員会議事録 【英語科】英語科FD、短大FD、自己点検委員会、教学マネジメント委員会議事録、アセスメントポリシー</p>	<p>【保育科】・毎年6月に学習成果検証の指標や手法について点検を行い、その年度の検証を開始する。 【英語科】継続して行う。</p>	<p>教学マネジメント委員会</p>
<p>(3) 教育の向上・充実のためのPDCAサイクルを活用している。</p>	<p>①'学科で学習成果検証報告書を作成、教学マネジメント委員会で審議し、次年度教育課程(開設科目)編成及びカリキュラム改善に活用した。</p> <p>(根拠)教学マネジメント委員会議事録</p>	<p>継続して行う。</p>	<p>教学マネジメント委員会</p>
<p>(4) 学校教育法、短期大学設置基準等の関係法令の変更などを確認し、法令を遵守している。</p>	<p>【保育科】①毎年教務課と連携し、学校教育法、短期大学設置基準等の関係法令の変更などを確認しながら、法令に則って課程を編成している。 ②なし 【英語科】①遵守している②なし</p> <p>(根拠)【保育科】(教学マネジメント委員会議事録、教務委員会議事録)、学科ワークショップ議事録、学科会議議事録 【英語科】教学マネジメント委員会議事録</p>	<p>【英語科】継続して行う。</p>	<p>教学マネジメント委員会</p>

<p>基準Ⅰ 自己点検委員会 評価</p>	<p>建学の精神の確立については、全体的に評価できる。本学の教育目的を明確に示しており、私立学校法に基づいた公共性を有している。またその内容は大学案内やホームページ等で学内外に示されている。定期的な確認作業や学内共有も行っており、これからも継続して行うことが求められる。今後は、学生にも分かりやすい表現や活動を通して定着を図ることが課題となろう。</p> <p>高等教育機関としての地域・社会貢献については既存の事業が評価されるが、更なる発展のために地域社会のニーズの把握と広報の充実が求められる。また、教職員や学生が地域社会のボランティア等に参加しやすくなるよう、機関レベルでの工夫が求められる。</p> <p>学習成果の学校教育法の規定に照らした定期的な点検については、英語科でその体制を整え、報告することとする。卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針(三つの方針)については、きちんと定められたものを学内外に表明し、またこれらをもとに教育活動を行っており、評価できる。</p> <p>自己点検・評価活動については、全教職員の関与と、外部特に高等学校等の関係者への意見聴取実施が未整備であることから、これらの解決が求められる。</p> <p>教育の質保証では、保育科の学習成果アセスメント手法の改善に向けての検討を求めたい。</p>
---------------------------	--

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

学習成果や卒業認定・学位授与の方針に基づく教育課程の編成と学習環境について明確に示す。卒業、学位授与、成績評価の方針が明確であり、就職や他の高等教育機関への編入などにつながる学習成果の獲得を保証していることを明確に示す。
 卒業認定・学位授与の方針が、社会的・国際的に通用性が保証されるものであることを明確に示す。学習を支援する環境(専門支援担当者の配置、図書館又は学習資源センター等での学生支援なども含む)を整え、学習成果の獲得を向上させていることを明確に示す。

短期大学は、学科又は専攻課程ごとに、建学の精神から成る教育目的・目標、学習成果及び三つの方針を学内外に明確に示し、その実践においては設定どおりの学習成果を獲得させなければならない。そのために、教育課程と学生支援は、学習成果の獲得に向けて、三つの方針に基づく質の高い教育プログラム、学生支援サービス及び他の学習資源の活用を促進しなければならない。

学習成果の質を保証するためには、自ら掲げる教育目的・目標、教育課程及び教育プログラム並びに学習成果について点検・評価する査定(アセスメント)の手法を有し、学生が獲得した学習成果がそれらの結果として獲得されたものであることを証明しなければならない。

短期大学は、学科・専攻課程に係る専門の学芸を教授し、職業又は実際生活に必要な能力を育成するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮しなければならない。

学習成果には、単に教育課程の卒業要件の単位を充足することや資格を取得するという専門的なものだけでなく、幅広く深い教養及び総合的な判断力などの汎用的なものも含まれる。学生が獲得した学習成果を量的・質的データとして測定し、卒業認定・学位授与の方針を満たすものであることを証明することで教育の質保証を図らなければならない。

学習成果の査定には、卒業生の進路先における評価の聴取など、卒業後評価への取り組みも含まれる。

<A 教育課程>

短期大学は、卒業認定・学位授与の方針を定めて、体系的な教育課程を編成しなければならない。その卒業認定・学位授与の方針は、卒業、学位授与、成績評価の方針が明確であり、就職や他の高等教育機関への編入につながる学習成果の獲得を保証し、社会的・国際的に通用性が保証されるものでなければならない。したがって、短期大学は、三つの方針を明確にし、それを基にして自己点検・評価を行い、質の向上・充実のための査定(アセスメント)を継続していかなければならない。

短期大学は、学科・専攻課程に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養を培うよう配慮しなければならない。また、専門的及び汎用的な学習成果の獲得を基盤にした職業又は実際生活に必要な能力を育成するための職業教育を適切に行うことも求められる。教育の効果は、学生の学習成果の獲得状況を量的・質的データとして収集し、そのデータを分析・解釈して顕在化することで判定できる。

区分	留意点	(Do, Check) ①実施状況・②課題 実施の根拠(エビデンス)	[Act] 改善に向けての取り組み	検討する 委員会等の 名称
基準Ⅱ-A-1 短期大学士の卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を明確に示している。	(1) 学科・専攻課程の卒業認定・学位授与の方針は、それぞれの学習成果に対応している。 ① 学科・専攻課程の卒業認定・学位授与の方針は、卒業の要件、成績評価の基準、資格取得の要件を明確に示している。	【保育科】①卒業認定・学位授与の方針と学習成果のリンクを策定している。 ②なし 【英語科】卒業認定・学位授与の方針と学習成果のリンクを策定している。②なし (根拠)【保育科】Student Handbook, HP情報の公開 【英語科】英語科FD、教学マネジメント、教授会、学生便覧		学科会議 教学マネジメント委員会
	(2) 学科・専攻課程の卒業認定・学位授与の方針を定めている。	沖縄キリスト教短期大学の目的及び各学科の教育研究上の目的に基づき、学科会議にて卒業認定・学位授与の方針を検討し、2018年度第6回教学マネジメント委員会における審議の結果、承認を得、策定した。 (根拠)教学マネジメント委員会議事録、3つのポリシーの策定及び運用に関するガイドライン(中央教育審議会)	継続して行う	教学マネジメント委員会
	(3) 学科・専攻課程の卒業認定・学位授与の方針は、社会的・国際的に通用性がある。	卒業認定・学位授与の方針は明確に定めているが、社会的・国際的に通用性があるか検証が必要である (根拠)	卒業認定・学位授与の方針は、社会的・国際的に通用性があるか検証が必要である	学科会議 教学マネジメント委員会
	(4) 学科・専攻課程の卒業認定・学位授与の方針を定期的に点検している。	【保育科】①定期的に学科会議やワークショップにおいてディプロマ・ポリシーについて確認している。 短期大学の規定に照らし、2018年8月保育科ワークショップ、また2018年6月～2019年1月にかけて学科会議にて審議を重ね点検を行い、修正、決定している。 ②なし 【英語科】①DPIについては学科会議やFDでその内容について点検を行い、変更の必要がある場合は教学マネジメント委員会で審議し修正している。企画の回答の後、また、TOEICの点数の伸び率やGPAの推移等をもとに点検を行っている。②なし (根拠)【保育科】科会議事録、学科ワークショップ議事録。 【英語科】短大FD	【保育科】2022年度に再度検討を行う予定 【英語科】英語群と国際観光ビジネス群の専門領域と学習成果及び3つのポリシーの整合性について検証を行う必要がある。	教学マネジメント委員会

<p>基準Ⅱ-A-2 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)を明確に示している。</p>	<p>(1) 学科・専攻課程の教育課程は、卒業認定・学位授与の方針に対応している。</p>	<p>【保育科】①DPとCPの対応は学科会議やFD等で定期的に確認し、教学マネジメント委員会へ報告している。②なし 【英語科】①DPとCPの対応は英語科FDで定期的に確認し、教学マネジメント委員会へ報告している。②なし</p> <p>(根拠)【保育科】科会議事録、学科ワークショップ議事録、Student Handbook、HP情報の公開 【英語科】学生便覧(対応表があります)</p>	<p>【英語科】継続する</p>	<p>教学マネジメント委員会</p>
<p>(2) 学科・専攻課程の教育課程を、短期大学設置基準にのっとり体系的に編成している。 ① 学科・専攻課程の学習成果に対応した、授業科目を編成している。 ② 単位の実質化を図り、年間又は学期において履修できる単位数の上限を定める努力をしている。 ③ 成績評価は学習成果の獲得を短期大学設置基準等にのっとり判定している。 ④ シラバスに必要な項目(学習成果、授業内容、準備学習の内容、授業時間数、成績評価の方法・基準、教科書・参考書等)を明示している。 ⑤ 通信による教育を行う学科・専攻課程の場合には印刷教材等による授業(添削等による指導を含む)、放送授業(添削等による指導を含む)、面接授業又はメディアを利用して行う授業の実施を適切に行っている。</p>	<p>【保育科】①①短期大学設置基準第4章教育課程第5条「教育課程の編成方針」を基に学習成果に対応した授業科目を編成しており、学生便覧75Pのカリキュラム・マップにおいて学生へも周知している。②短期大学設置基準13条の2に倣って本学では1学期間の登録単位数を25と定めている③成績評価は、学則第29条に基づき行っている。シラバスに評価方法や評価基準を示しており事前に学生へも周知している。④シラバスは毎年点検を行い、必要な項目を明示している。②なし 【英語科】英語と観光の2つの専門領域で成り立っている。②上限は25単位まで③判定している④毎学期、シラバスを見直している⑤この短期大学には通信による教育を行う学科がない。 【教務課】①短期大学設置基準第5条に基づき、各学科の学習成果に対応した授業科目を編成している。また、各授業科目の学習を通して学生が学習成果を獲得できるよう、教育課程の体系化を図り、学生への周知として学生便覧等へカリキュラム・マップを掲載している。 ②短期大学設置基準第13条の2に基づき、「沖縄キリスト教短期大学履修規程」第4条の3において学期毎の履修可能な単位数は、原則として25単位を上限とし、単位の実質化を図るよう努めている。 ③成績評価は、学則第29条に基づき行っている。シラバスに評価方法や評価基準を示しており事前に学生へも周知している。④シラバスの作成においては、教学マネジメント委員会で「シラバス作成ガイドライン」を策定し、記載事項及び留意点について周知し、作成の依頼を行っている。また、作成後は第三者チェックを実施し、シラバス内容の適切性を点検している。</p> <p>(根拠)【保育科】①カリキュラムマップ、ディプロマポリシーと学習成果のリンク ②③沖縄キリスト教短期大学履修規程④シラバス 【英語科】①カリキュラムマップ、ディプロマポリシーと学習成果のリンク ②学生便覧 ③短大設置基準第4章第11条の2 ④シラバス 【教務】①カリキュラムマップ、ディプロマポリシーと学習成果のリンク ②③沖縄キリスト教短期大学履修規程 ④シラバス、2019年度シラバス作成ガイドライン</p>	<p>【英語科】①英語群と観光ビジネス群の専門領域と学習成果及び3つのポリシーの整合性について検証を行う必要がある。</p>	<p>教学マネジメント委員会</p>	
<p>(3) 学科・専攻課程の教員を、経歴・業績を基に、短期大学設置基準の教員の資格にのっとり適切に配置している。</p>	<p>【保育科】①学科で短大設置基準に則り、適切に教員の配置を行っている。 ②なし 【英語科】3つのポリシーと設置基準に則り、適切に採用・配置している</p> <p>(根拠)【保育科】短期大学教員人事委員会規程、沖縄キリスト教短期大学教員資格審査基準、学科会議議事録 【英語科】短期大学教員人事委員会規程、沖縄キリスト教短期大学教員資格審査基準</p>		<p>短期大学教員人事委員会</p>	
<p>(4) 学科・専攻課程の教育課程の見直しを定期的に行っている。</p>	<p>【保育科】①学科ワークショップや学科会議において定期的に教育課程の見直しを行っている。2020年度新カリキュラム開始に合わせ、2018年度教育課程に大幅な変更を加えた。以降、2019年3月までカリキュラムツリー、カリキュラムマップの見直しを行っている。2019年度からは学習成果検証報告書を発行、検討をふまえたカリキュラム変更を行っている。 【英語科】5つのアクセスを用いて定期的に教育課程の検証を行い、教学マネジメント委員会で検討している。①満足度調査②授業評価アンケート③受講者数/閉講クラス④成績分布状況⑤TOEIC IPテスト。②なし</p> <p>(根拠)【保育科】学科ワークショップ議事録、学科会議議事録 【英語科】英語科FD、短大FD、教学マネジメント委員会議事録</p>	<p>【保育科】・2019年度学習成果検証を行う。 ・2020年6月にもカリキュラム・ツリー修正の検討をしており、適時見直しを行っている。</p>	<p>教学マネジメント委員会</p>	

基準Ⅱ-A-3 教育課程は、短期大学設置基準にのっとり、幅広く深い教養を培うよう編成している。	(1) 教養教育の内容と実施体制が確立している。	① 教養教育運営委員会を置き、委員会の活動を通してその内容と実施の体制は確立している。 ② なし (根拠) 教養教育運営委員会議事録	教養教育運営委員会の活動を通して、学科との連携をより緊密におこなう。	教養教育運営委員会
	(2) 教養教育と専門教育との関連が明確である。	① 英語科、保育科の卒業要件に組み込まれるなど、かなり明確である。 ② 学科プログラムとの統合を進める。 (根拠) 教養教育運営委員会議事録、学生便覧、第1回短大FDワークショップ報告書	教養教育のDPを各学科のDPに統合したり、各学科のカリキュラムツリーに教養教育科目を組み入れることで関連性をさらに明確化する。	教養教育運営委員会
	(3) 教養教育の効果を測定・評価し、改善に取り組んでいる。	① 授業評価報告について運営委員会で議論するなど活発に取り組んでいる。 ② 学習成果により力をいれる。 (根拠) 教養教育運営委員会議事録、授業評価報告書(アセスメント)	幼保英語、准学校心理士、ワード文書、表計算に関する資格などを導入、実施する。	教養教育運営委員会
基準Ⅱ-A-4 教育課程は、短期大学設置基準にのっとり、職業又は實際生活に必要な能力を育成するよう編成し、職業教育を実施している。	(1) 学科・専攻課程の専門教育と教養教育を主体とする職業への接続を図る職業教育の実施体制が明確である。	【キャリア課】① 学科と連携して、キャリア教育の体系を整えている。② なし 【保育科】① 保育実習を実施している。また、学科専任教員が教養教育委員およびキャリア支援委員として各部署と連携をとり職業教育を実施している。 ② なし 【英語科】① 職業教育は進路セミナーや授業を通して、毎年実施している。キャリアレッスンは必修科目としており、2年次の全学生が受講している。② なし (根拠) 【キャリア課】キャリア支援委員会規程、議事録 【保育科】学科会議事録、(教養教育委員会議事録、キャリア支援委員会議事録) 【英語科】キャリアガイダンス、キャリアレッスン、フレッシュマンセミナー、進路セミナー	【キャリア課】継続して行う。 【英語科】継続する	【キャリア課】キャリア支援委員会 【英語科】英語科、キャリア支援課
	(2) 職業教育の効果を測定・評価し、改善に取り組んでいる。	【キャリア課】① 職業教育の効果について、測定・評価は、進路状況(就職率)において数値化している。 英語科では、今年度から授業と連携し、キャリア教育を授業に取り入れたことで、就職希望率が上がっている。また、2019年度は、就職内定率は下がったが、一時的な仕事について者が減少している。卒業後安易にアルバイトを続けるのではなく、就職する学生が増えた。 保育科においては、保育園・幼稚園以外の企業への就職希望者が増え始めた。学生の多様化がみられ、キャリア支援課での指導も2年前期から個別面談を開始し対応している。 キャリア支援委員会、教授会等において報告し情報共有している。 ② なし 【保育科】① 職業教育(進路セミナー)の実施による学生の意見などを通じてより徹底した職業教育の必要性を実感し、2020年度よりフレッシュマンセミナー内にて更なる職業教育を実施予定。 【英語科】① 職業教育科目の授業評価アンケートや就職率の高い職業分野を分析し、シラバスの点検を行うなど改善につなげている② なし (根拠) 【キャリア課】キャリア支援委員会議事録・教授会 【保育科】キャリア支援委員会議事録、学科会議事録、「進路セミナー」でのアンケート 【英語科】キャリアに関する科目のシラバス、	【キャリア課】就職状況を経年比較することで、効果の測定や評価を共有し、改善に生かす取り組みを継続して行う。 【保育科】フレッシュマンセミナー内で職業教育実施	【キャリア課】キャリア支援委員会

<p>基準Ⅱ-A-5 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)を明確に示している。</p>	<p>(1)入学者受入れの方針は学習成果に対応している。</p>	<p>【入試課】①英語科では国際観光科目がスタートした。これまでの英語コミュニケーションを中心としていた学科として、現アドミッションポリシーは適切なのかについて検証する必要がある。 保育科については、目標が明確に定まっていることから学習成果に対応しているといえる。 ②アドミッションポリシーを見直す必要があるならば、他のポリシーの検証も必要である。 【保育科】①学習成果に対応した入学者受入れの方針を設定している。学習成果①→主にAP①と対応。 学習成果②→主にAP②と対応 学習成果③→主にAP②と対応 学習成果④→主にAP①と対応 学習成果⑤→主にAP③と対応 ②なし 【英語科】①AP1建学の精神 AP2国際的な貢献 AP3コミュニケーションにおける思考力 AP4学力の3要素を基礎にコミュニケーション能力を身につける。 ②なし</p> <p>(根拠)【入試課】大学案内、募集要項等 【保育科】HP情報の公開、Student Handbook、学生募集案内 【英語科】入試案内、ホームページ</p>	<p>【入試課】学科と議論を重ねていく。 【英語科】国際観光ビジネス群との整合性を検証していく 【保育科】継続する</p>	<p>学科会議 入試委員会 教学マネジメント委員会</p>
	<p>(2)学生募集要項に入学者受入れの方針を明確に示している。</p>	<p>①両学科共、大学案内や募集要項、HP、学生便覧に明記し周知を行っている。オープンキャンパスや業者主催の進学ガイダンス、高校進路担当者大学入試説明会、高校内大学説明会にて生徒、保護者、教員に対して具体的な説明を行い明確にしている。 ②なし</p> <p>(根拠)大学案内、募集要項等等</p>	<p>常に検証していく。</p>	<p>学科、入試委員会</p>
	<p>(3)入学者受入れの方針は、入学前の学習成果の把握・評価を明確に示している。</p>	<p>【入試課】①両学科共に各入試選抜において調査書・成績の把握・評価を行っている。よって、入学者受入れの方針は、入学時に問われる能力を求める内容として明確に示されている。 ②より分かりやすい(具体的な)内容にするならば、検討する必要がある。 【保育科】①示してはいるが、具体的ではない。 ②具体的な入学前学習成果の把握・評価を提示する必要がある。 【英語科】①アドミッションポリシーは毎年学生便覧や学生募集要項に載せている ②なし</p> <p>(根拠)【入試課】大学案内 【保育科】HP情報の公開、Student Handbook、学生募集案内 【英語科】学生便覧、学生募集要項</p>	<p>【入試課】学科、教務課と共に議論を重ねていく。 【英語科】継続する 【保育科】具体的な入学前学習成果の把握・評価方法を検討する</p>	<p>【入試課】学科、教務課、入試委員会</p>
	<p>(4)入学者選抜の方法(推薦、一般、AO選抜等)は、入学者受入れの方針に対応している。</p>	<p>【入試課】①両学科共に入学者選抜の方法について出題や面接の内容にたえず改良を加え、入学者受入れの方針に対応させている。 ②受験生がしっかり理解できるよう常に点検をしなければならない。 【保育科】①入学者受入れの方針に対応した選抜方法となっている。 ②なし 【英語科】①対応している②なし</p> <p>(根拠)【入試課】募集要項 【保育科】学科会議議事録、(入試委員会議事録) 【英語科】学生募集要項</p>	<p>【入試課】3つのポリシーがしっかり運動しているか、教務課と連携を密にしていく。 【英語科】継続する</p>	<p>【入試課】学科、入試委員会 【英語科】英語科</p>
	<p>(5)高大接続の観点により、多様な選抜についてそれぞれの選考基準を設定して、公正かつ適正に実施している。</p>	<p>【入試課】①各入試選抜において、基準の選考方法を設定し、適性な入学試験を実施している。また、入学選抜改革による選抜方法については2019年度方針を確定し、2020年度から実施する。 ②各入試選抜において、さらに具体的な選考方法を検討しなければならない。 【保育科】①学力の3要素における知識・技能を図るため、2020年度実施試験より面接内容の変更を予定している②なし 【英語科】①実施している②なし</p> <p>(根拠)【入試課】募集要項 【保育科】(入試委員会議事録) 【英語科】学生募集要項</p>	<p>【入試課】継続して取り組む 【英語科】継続する 【保育科】2020年度実施試験より面接内容の変更を予定</p>	<p>【入試課】学科、入試委員会 【英語科】英語科</p>

	(6) 授業料、その他入学に必要な経費を明示している。	①授業料等経費については、大学案内、募集要項、入学手続要項に明示している他、HPにおいて掲載している。 ②なし (根拠)大学案内、募集要項等		入試委員会
	(7) アドミッション・オフィス等を整備している。	①入試課として入試関連業務をすべて行っている。 ②なし (根拠)	現時点で入試業務に支障はきたしていない。	入試委員会
	(8) 受験の問い合わせなどに対して適切に対応している。	①問い合わせに関しては、滞りなく適切に対応している。入試課職員が不在の際(外部(ガイダンス等))も他部署の協力を得て、窓口・電話対応を行ってもらっている。 ②なし (根拠)募集要項や大学案内に問い合わせ先を明記		入試委員会
	(9) 入学受入れの方針を高等学校関係者の意見も聴取して定期的に点検している。	①現時点では意見の聴取はしていない。 ②入試説明会や訪問の際にアンケートやヒヤリングを行うなどして対応にあたることとした。 (根拠)	各高校との信頼関係を築きながら前向きに検討する。 入試説明会や訪問の際にアンケートやヒヤリングを行うなどして対応にあたることとした。	入試委員会
基準Ⅱ-A-6 短期大学及び学科・専攻課程の学習成果は明確である。	(1) 学習成果に具体性がある。	【保育科】①学習成果は各科目に紐づけられており、その科目の到達目標に学生が～できる、～が身につくと明記している。更に学習成果の検証をした学習成果検証報告書の作成を行っている。 ②なし 【英語科】学習成果は各科目に紐づけられており、その科目の到達目標に学生が～できる、～が身につくと明記している。更に学習成果の検証をした学習成果検証報告書の作成を2020年度から始める。 (根拠)【保育科】HP、Student Handbook、学生募集案内、シラバス 【英語科】カリキュラムマップ(学生便覧)	【英語科】学習成果検証報告書の作成 【保育科】学習成果と科目により具体的な紐づけの検討を行う	
	(2) 学習成果は一定期間内で獲得可能である。	各科目が半期ごとに学習成果を獲得できるように授業計画を立てている。評価基準はルーブリックにて明確にしている。達成状況を確認しながら、達成が出来ていない学生には再試験等に対応し、2年間の学びの中で学習成果を獲得できる内容としている。 (根拠)【保育科】HP、Student Handbook、学生募集案内、シラバス 【英語科】獲得したものを卒業として認定している、シラバス	継続して行う	
	(3) 学習成果は測定可能である。	【保育科】2019年度学習成果検証はⅠ.科目別過去3年間の受講生数推移データ、Ⅱ.2018年度授業評価アンケート「学習成果毎の集計」、Ⅲ.2018年度卒業時アンケート「学習成果に関する自己評価」の集計結果をもとに分析・検証が行われている。 ②なし 【英語科】①5つのアセスメントを用いて学習成果の検証を行っています。 ①満足度調査②授業評価アンケート③受講者数/閉講クラス④成績分布状況⑤TOEIC IPテスト。②なし (根拠)【保育科】HP、Student Handbook、シラバス、各種アンケート 【英語科】ルーブリックで成績を評価している	【保育科】Ⅰ.2019年度短大満足度調査、Ⅱ.科目別過去3年間の受講生数推移、Ⅲ.2019年度授業評価アンケート×授業評価、Ⅳ.成績分布状況データ、Ⅴ.実習評価票をもとにした外部評価と学生の自己評価票の分析をもとに検証を行う予定。 【英語科】継続する	

基準Ⅱ-A-7 学習成果の獲得状況を量的・質的データを用いて測定する仕組みをもっている。	(1) GPA分布、単位取得率、学位取得率、資格試験や国家試験の合格率、学生の業績の集積(ポートフォリオ)、ルーブリック分布などを活用している。 (※エビデンスデータが必要な場合は、学科からIRや教務課へ作成を依頼する)	【保育科】①GPA分布を学科会議で活用している。②なし 【英語科】①GPA分布や単位取得率などを活用し、それを基に英語科FDや短大FDで学習成果やカリキュラムの検証を行っている。②なし (根拠)【英語科】英語科FD、短大FD	【英語科】継続する 【保育科】継続する		
	(2) 学生調査や学生による自己評価、同窓生・雇用者への調査、インターンシップや留学などへの参加率、大学編入学率、在籍率、卒業率、就職率などを活用している。 (※エビデンスデータが必要な場合は、学科から担当課へ作成を依頼する)	【保育科】①学生満足度調査や授業評価アンケートの結果等を学科会議で活用している。②なし 【英語科】①学生満足度調査、編入学率、就職率、卒業率、留学率などを英語科FDや短大FDで活用している。②なし (根拠)【英語科】英語科FDや短大FD 【保育科】学科会議議事録	【英語科】継続する 【保育科】継続する		
	(3) 学習成果を量的・質的データに基づき評価し、公表している。	【保育科】2019年度学習成果検証はⅠ.科目別過去3年間の受講生数推移データ、Ⅱ.2018年度授業評価アンケート「学習成果毎の集計」、Ⅲ.2018年度卒業時アンケート「学習成果に関する自己評価」の集計結果をもとに分析・検証が行われ、結果を公表している。 【英語科】①GPA分布や資格取得率等に加え、卒業時の学生満足度調査にて学習成果の達成度の自己評価を答えてもらい、結果を公表している。 (根拠) 【保育科】学生満足度調査、学習成果検証報告書 【英語科】授業成績、TOEICスコア、GPA分布	継続する		
基準Ⅱ-A-8 学生の卒業後評価への取り組みを行っている。	(1) 卒業生の進路先からの評価を聴取している。	①3年に1回、企業・事業所アンケートを実施している。2019年度はアンケートの実施年度に当たっている。今年度のアンケートには、DPが検証できる設問を追加した。設問内容については、学科担当委員および学科から意見聴取し、設定した。英語科は、55企業に送付し39企業から回答を得た。保育科は、50事業所に送付し39事業所から回答を得た。 ②送付組織数を前年度就職先組織数以上に送付する必要がある。②なし (根拠)キャリア支援委員会規程、議事録	DPを踏まえた設問を追加し、検証結果は学科会議に提供しているが、改善課題がないか2020年度からキャリア支援委員会で、検討を開始する。また、次回アンケートは2021年度に実施予定。	キャリア支援委員会	
	(2) 聴取した結果を学習成果の点検に活用している。	①両学科ともにキャリア支援課が3年に1回実施しているアンケートの活用が出来ていない。②キャリア支援課と連携し、アンケートの実施と分析、活用について検討が必要。 (根拠)	両学科ともキャリア支援課と連携し、アンケートの実施と分析、活用について検討を行う		

<B 学生支援>

短期大学は、積極的に資源配分を整備して学生の学習支援を図り、成績評価基準等に従って学習成果の獲得状況を評価し、学習成果の獲得が向上するように教育方法、教育課程及び教育プログラムの見直しを行わなければならない。

短期大学は、建学の精神と教育目的・目標に基づいて、多様な学生を募集し、その入学を許可し、教育課程に基づき学習成果を獲得させなければならない。学生支援は、学生のニーズを的確にとらえ、それに対応した学習支援の環境を整えることである。

短期大学は、学生の学習を支援するために図書館や学習資源センター等に専門性が高く、種類が豊富な資料を用意するとともに、学生支援のための専門的職員を配置することが望ましい。短期大学は、学生生活支援のための組織や支援体制を整備しなければならない。

区分	留意点	〔Do, Check〕 ①実施状況・②課題 実施の根拠(エビデンス)	〔Act〕 改善に向けての取り組み	検討する 委員会等の 名称
<p>基準Ⅱ-B-1 学習成果の獲得に向けて教育資源を有効に活用している。</p>	<p>(1) 教員は、学習成果の獲得に向けて責任を果たしている。 ① 教員は、シラバスに示した成績評価基準により学習成果の獲得状況を評価している。 ② 教員は、学習成果の獲得状況を適切に把握している。 ③ 教員は、学生による授業評価を定期的を受けて、授業改善に活用している。 ④ 教員は、授業内容について授業担当者間での意思の疎通、協力・調整を図っている。 ⑤ 教員は、教育目的・目標の達成状況を把握・評価している。 ⑥ 教員は、学生に対して履修及び卒業に至る指導を行っている。</p>	<p>【保育科】①②学習成果はGPA及び履修単位数、単位取得状況で把握している。 ③授業評価アンケートを半期毎に実施し、その結果を踏まえてティーチングアワードを決定。受賞した教員による授業参観を実施している。 ④学期開始前に非常勤教員も含めたFDを実施、また各科目ごとに学期中に数回FDを行っている。 ⑤授業評価アンケートから、学生の達成度状況を把握している。 ⑥オフィスアワーやアドバイザー制度を用いて学生に適切に指導を行っている 【英語科】(1)責任を果たしている。 ①成績はルーブリックにより、学習成果の獲得状況を評価している。 ②毎年、CPと学習成果のリンクを見直している。 ③毎学期末に授業評価アンケートを実施し、授業改善に役立っている。 ④毎学期開始前に、担当者のFDを設け、協力体制の確認を行っている。 ⑤TOEICテストや授業評価アンケートの結果を分析することで、教育目的・目標の達成状況を把握している。 ⑥毎学期開始前には、全専任教員による学生に対しての学業指導を行っている。 ②なし 【教務】 ①各授業科目の成績については、シラバスにおいて示す評価基準およびルーブリックに基づいて学習成果の獲得状況を評価している。 ②学習成果の獲得状況について、満足度調査、授業改善アンケート、成績分布状況、外部アセスメント等の分析データを基に学習成果を検証している。 ③授業評価アンケートを半期毎に実施し、学生からの指摘・要望に対するフィードバックコメントを出し、授業改善に努めている。また、アンケートの結果を踏まえてティーチングアワードを決定。受賞した教員による授業参観を実施し、授業改善に活用している。 ④学期開始前に非常勤教員も含めたミーティングを行っている ⑤学生満足度調査で学習成果達成の自己評価をはかる項目を設けており、その結果をHPに掲載し、教員は達成状況の把握・評価を行っている。 ⑥オフィスアワーやアドバイザー制度を用いて学生に適切に指導を行っている</p> <p>(根拠)【保育科】シラバス、成績分布、授業評価アンケート、ルーブリック、学科会議議事録、非常勤講師とのFD研修会議事録 【英語科】(根拠)①成績評価ルーブリック ②教学マネジメント ③授業評価アンケートのフィードバック ④専任・非常勤講師のFD(3月と9月) ⑤TOEICテストの結果分析、授業評価アンケート ⑥履修オリエンテーション(3月と9月)</p>	<p>継続して行う</p>	
	<p>(2) 事務職員は、学習成果の獲得に向けて責任を果たしている。 ① 事務職員は、所属部署の職務を通じて学習成果を認識して、学習成果の獲得に貢献している。 ② 事務職員は、所属部署の職務を通じて教育目的・目標の達成状況を把握している。 ③ 事務職員は、所属部署の職務を通じて学生に対して履修及び卒業に至る支援を行っている。 ④ 事務職員は、学生の成績記録を規程に基づき適切に保管している。</p>	<p>【教務】(①)①教育課程編成及びカリキュラム改善に活用する「学習成果検証報告書」作成や、作業スケジュール調整に関して、教務課と各学科が連携し、学習成果獲得に向け取り組んでいる。②取り組みが不十分である。 【②】①「授業評価アンケート」実施。 (注)企画推進課「卒業時アンケート(学習成果に関する自己評価)」実施 ②学習成果の可視化(直接評価、間接評価による到達目標達成度等)に係る取り組みが不十分である。 【③】①4・10月の履修オリエンテーションや履修科目登録時に、教務課職員が学生向け履修指導を行い、最終年次に対しては卒業仮判定を実施している。②なし 【④】①短期大学学則第45条第5項に基づき1～37期の成績原簿は紙及びPDFで保存している。②38期～現在の成績原簿は教務システムにて管理しているが、PDF保存・保管も検討中 【総務】①左記の①～④については教務課職員は責任を果たしている。他の部署の職員は、③の卒業に至る支援を行っている。②なし。</p>	<p>【教務課】 【①】カリキュラム・コーディネーター(教務課職員)を中心に、確実な学習成果獲得への取り組みを検討している。 【②】教務システムとして「修学ポートフォリオ」導入を検討している。 【③】継続して行う。 【④】38期以降の成績原簿は教務システム管理のみの為、別保管としてPDF保存調整中</p>	<p>教務委員会、短大教授会、教学マネジメント委員会</p>

		<p>(根拠) 【①】学習成果検証報告書、2019年度アセスメント実施スケジュール(学習成果検証) 【②】授業評価アンケート、卒業時アンケート 【③】履修登録ガイド、ルーブリック利用ガイド、卒業仮判定資料 【④】沖繩キリスト教短期大学学則第45条第5項、1～37期の学業成績表はPDF保存、38期～現在は教務システム管理のみ 【総務】事務分掌規程</p>		
	<p>(3)教職員は、学習成果の獲得に向けて施設設備及び技術的資源を有効に活用している。 ①図書館又は学習資源センター等の専門的職員は、学生の学習向上のために支援を行っている。 ②教職員は、学生の図書館又は学習資源センター等の利便性を向上させている。 ③教職員は、学内のコンピュータを授業や大学運営に活用している。 ④教職員は、学生による学内LAN及びコンピュータの利用を促進し、適切に活用し、管理している。 ⑤教職員は、教育課程及び学生支援を充実させるために、コンピュータ利用技術の向上を図っている。</p>	<p>【支援セ】①学習支援センターには専任の教職員が兼務している。 ②必要に応じ学習支援センター運営委員会を開催している。 ③PC教室(計90台)にCALLシステムを導入し、語学教育、及びICT教育に活用している。また、グループウェアソフトを使って、教職員間における情報共有、及び会議等でのペーパーレス化を促進している。 ④学生の持ち込みPCを活用できるように、無線LAN環境を提供している。また、いつでも、どこでも講義資料の受け取りや課題提出等ができるように授業支援システム「iLAS」を導入している。 ⑤年1回、ICT教育研究会を実施している。 ②①～⑤なし 【図書課】①図書館ツアーや文献検索セミナー等を実施している。 ②年度ごと学生の実態を踏まえてイベントを見直す。 【総務】①左記の③について、職員一人一台のパソコンを配置し業務をしており、大学運営に活用している。 ②なし。</p>	<p>【支援セ】継続して行う。 【図書課】今後も学科や他部署と連携して、アクティブラーニングの質向上に継続的に努める。</p>	<p>【支援セ】①②学習支援センター運営委員会 ③④⑤情報システム委員会 【図書課】図書館委員会 教授会 大学運営協議会 課長会</p>
		<p>(根拠) 【支援セ】①②学習支援センターチューターハンドブック、チューターミーティング議事録、学習支援センター運営委員会議事録、チュータリング活動データ ③④各システム概要、ネットワーク構成図 ⑤実施報告書 【図書課】図書館委員会議事録、教授会議事録、大学運営協議会議事録、課長会議事録</p>		
基準Ⅱ-B-2 学習成果の獲得に向けて学習支援を組織的にしている。	(1)入学手続者に対し入学までに授業や学生生活についての情報を提供している。	<p>①学科と連携し、合格者へ案内を行っている。案内の内容は、入学前のスクリーニング(Bridge Program)、課題の詳細についてである。 ②欠席者への対応について、どのように周知徹底するのかなど。</p>	<p>課題について学科と連携を図る必要がある。</p>	<p>学科会議</p>
		<p>(根拠)各学科の案内文</p>		
	(2)入学者に対し学習、学生生活のためのオリエンテーション等を行っている。	<p>①毎年4月に実施</p>	<p>継続して行う</p>	<p>学生生活委員会</p>
		<p>(根拠)「新入生オリエンテーション」資料</p>		
	(3)学習成果の獲得に向けて、学習の動機付けに焦点を合わせた学習の方法や科目の選択のためのガイダンス等を行っている。	<p>【保育科】①(履修オリエンテーション)、新入学予定者オリエンテーション、新入学予定者短大オリエンテーション、アドバイザーによる履修指導および登録確認。②なし 【英語科】1新入生に対しては第3回Bridge Programで、在学生に対しては履修オリエンテーションでガイダンスをしている。2なし</p>		
	<p>(根拠)【保育科】(履修オリエンテーション)、新入学予定者オリエンテーション、新入学予定者短大オリエンテーション、アドバイザーによる履修登録確認資料 【英語科】Bridge Program資料</p>			
	(4)学習成果の獲得に向けて、学生便覧等、学習支援のための印刷物(ウェブサイトを含む)を発行している。	<p>①毎年「学生便覧」を発行 ②なし</p>	<p>継続して行う</p>	<p>学生生活委員会</p>
		<p>(根拠)「学生便覧」</p>		
	(5)学習成果の獲得に向けて、基礎学力が不足する学生に対し補習授業等を行っている。	<p>①学習支援センターでは、教員や学生チューターが利用者のニーズに合わせた指導・助言を行っている他、授業とも連動して学生の支援を行っている。 ②なし</p>	<p>継続して行う。</p>	<p>学習支援センター運営委員会</p>
		<p>(根拠) 学習支援センターチューターハンドブック、チューターミーティング議事録、学習支援センター運営委員会議事録、チュータリング活動データ</p>		

<p>(6) 学習成果の獲得に向けて、学習上の悩みなどの相談にのり、適切な指導助言を行う体制を整備している。</p>	<p>【保育科】①アドバイザー制度、学生修学ポートフォリオ面談記録、学科会議での情報共有、オフィスアワーの活用②なし 【英語科】1アドバイザー制度やオフィスアワーの整備を行っているほか、学内カウンセラーも配置している②なし 【支援セ】①学習支援センターでは、教員や学生チューターが利用者のニーズに合わせた指導・助言を行っている。②なし</p> <p>【保育科】(根拠)アドバイザー制度、学生修学ポートフォリオ、学科会議議事録 【支援セ】学習支援センターチューターハンドブック、チューターミーティング議事録、学習支援センター運営委員会議事録、チュータリング活動データ 【英語科】(根拠)アドバイザー制度がある。学内カウンセラーもいる。</p>	<p>継続して行う。</p>	<p>学習支援センター運営委員会</p>
<p>(7) 学習成果の獲得に向けて、通信による教育を行う学科・専攻課程の場合には、添削等による指導の学習支援の体制を整備している。</p>	<p>(根拠)</p>		
<p>(8) 学習成果の獲得に向けて、進度の速い学生や優秀な学生に対する学習上の配慮や学習支援を行っている。</p>	<p>【保育科】①音楽クラスでは進度の早い学生に対して対応。 ②他科目も含め総合的に学生状況を把握し、学習支援センターとのより一層の連携が必要。 【支援セ】①学習支援センターでは、英語科の成績優秀な学生や保育科のピアノが上手な学生をチューターとして採用している。 【英語科】1グレードの高い授業を履修できるようにしている。また4年大学での授業を科目等履修制度を活用して履修できるようになっている。②なし 【企画】現状英語系のクラスもレベル別でクラス分けされており、進度の早い学生や優秀な学生は上級クラスを受講できるようになっている。また、英検対策講座も無料で設けており、意欲のある学生に対して積極的な支援を行っている。保育科でもピアノのクラスで上級者向けに音楽Ⅱという科目を設置している。</p> <p>【保育科】(根拠)音楽クラス資料、学習支援センター利用状況 【支援セ】学習支援センターチューターハンドブック、チューターミーティング議事録、学習支援センター運営委員会議事録、チュータリング活動データ 【英語科】沖縄キリスト教短期大学科目等履修生に関する細則</p>	<p>【保育科】学習支援センターとの連携強化</p>	<p>学習支援センター運営委員会</p>
<p>(9) 必要に応じて学習成果の獲得に向けて、留学生の受入れ及び留学生の派遣(長期・短期)を行っている。</p>	<p>①-1、留学生の受入れ:外国人留学生の在籍者数0人 ①-2、留学生の派遣(長期):在学留学奨学生3人 ①-3、留学生の派遣(短期):ハワイ研修(英語科5人予定)、海外幼児教育研修(保育科13人予定)、台湾研修(英語科7人)</p> <p>②-1、外国人留学生の在籍がない状況は本学にとって大きな課題のひとつである。 ②-2、なし ②-3、今年度より、必須の授業を設け、事前学習体制を強化したが、当該授業を履修できない学生がいるなど、不十分な点があった。</p> <p>(根拠) ①-1=HP情報の公表 ①-2=在学留学生特別奨学生一覧 ①-3=海外研修(ハワイ/台湾)参加者リスト</p>	<p>・外国人留学生の受入れ:委員会を中心に引き続き全学的に検討し、学内の受け入れ態勢の整備について検討を要する。 ・留学生の派遣(短期):事前学習体制を更に充実させる。</p>	<p>グローバル化推進委員会、国際平和文化交流委員会</p>
<p>(10) 学習成果の獲得状況の量的・質的データに基づき学習支援方策を点検している。</p>	<p>【保育科】①成績や単位取得率の悪い学生に対してアドバイザーの教員や実習担当教員が個別指導を行っている。 ②今後定期的に支援方法について検討する。 【英語科】毎年成績配布時に各教員がアドバイザーグループの学生毎に個別面談を行い、GPAや成績取得状況に応じた指導を行っている。また、学習支援センターやキャリア支援課が主催している資格取得に関する講座も活用している。②現状の支援方法に対する点検が行えていない</p> <p>(根拠)</p>	<p>【保育科】個別指導の情報を学科FD等で共有し、支援方策の点検・改善につなげる。 【英語科】個別面談にて対応が必要な学生の情報を学科FD等で共有し、支援方策の点検・改善につなげる。</p>	

基準Ⅱ-B-3 学習成果の獲得に向けて学生の生活支援を組織的に行っている。	(1) 学生の生活支援のための教職員の組織(学生指導、厚生補導等)を整備している。	①学生課が担当 ②学生を取り巻くリスクが増えてきており、その予防策、対処を日々学ぶ必要がある (根拠)「学生便覧」	情報、知識をアップデートする研修や勉強会を検討する	学生生活委員会
	(2) クラブ活動、学園行事、校友会など、学生が主体的に参画する活動が行われるよう支援体制を整えている。	①学生課が窓口となり、学生会、サークルと連動して活動できる支援体制を整えている ②なし (根拠)「学生便覧」	よりサークル活動が活性化するように定期的なミーティングを行いたい	学生生活委員会
	(3) 学生食堂、売店の設置等、学生のキャンパス・アメニティに配慮している。	①小規模の短期大学であるが、外部に委託し、学生食堂、売店やコーヒールウンジの設置等、学生のキャンパス・アメニティに配慮している。 ②利用者が減少傾向にある。 (根拠)キャンパスマップ	利用者の増加、学生満足度を高めるためにもキャンパスアメニティの充実に取り組むべく検討している。	法人事務連絡会議、大学運営協議会
	(4) 宿舎が必要な学生に支援(学生寮、宿舎のあっせん等)を行っている。	①希望者がいれば紹介している ②なし (根拠)「学生便覧」	継続して行う	学生生活委員会
	(5) 通学のための便宜(通学バスの運行、駐輪場・駐車場の設置等)を図っている。	①駐輪場・駐車場約560台分のスペースを設置している。 ②ピーク時には不足するのが課題である。 (根拠)キャンパスマップ	学生へ公共交通機関の利用や乗り合わせを要請する。	
	(6) 奨学金等、学生への経済的支援のための制度を設けている。	①本学独自の「奨学金」を前後期に給付 ②なし (根拠)「奨学金授与者一覧」(表)	継続して行う	学生生活委員会
	(7) 学生の健康管理、メンタルヘルスケアやカウンセリングの体制を整えている。	①「学生相談室案内」を全学生に配布している。また、保健室に保健師の資格を有する専門職員1名配置している他、学内カウンセラーも2名配置して学生の相談に対応できる体制を整えている。 (根拠)「学生相談室案内」(文書)、学生相談室規程	継続して行う	学生生活委員会
	(8) 学生生活に関して学生の意見や要望の聴取に努めている。	①実施している(学生生活実態調査、学生満足度調査)②回収率の増加 (根拠)HP内学生生活実態調査報告書、学生満足度調査報告書	授業内で実施することを検討する	学生生活委員会、FD委員会
	(9) 留学生在籍する場合、留学生の学習(日本語教育等)及び生活を支援する体制を整えている。	①-1、外国人留学生の学習(日本語教育等)については、科目「日本語音声表現Ⅰ・Ⅱ」があるが、現在、外国人留学生の在籍はないため、開講していない。 ①-2、外国人留学生の生活を支援する体制については、今後在籍がある場合に備え、整えている。 ②-1、②-2、外国人留学生の在籍がない状況は本学にとって大きな課題のひとつである。 (根拠)①-1=学生便覧(短大) ①-2=HP情報の公表	・外国人留学生の受入れについて、委員会を中心に引き続き全学的に検討する。	グローバル化推進委員会、国際平和文化交流委員会
	(10) 社会人学生が在籍する場合、社会人学生の学習を支援する体制を整えている。	【学生課】①一般学生と同様のサービスを提供している。 ②なし 【保育科】①社会人学生の在籍はない。 ②社会人受け入れの体制を整える必要がある。 【英語科】1整えている2いいえ (根拠)【英語科】(根拠)長期履修制度を設けている	【学生課】在籍した場合、個別対応をしていく	【学生課】学生生活委員会
	(11) 障がい者の受入れのための施設を整備するなど、障がい者への支援体制を整えている。	学内施設はバリアフリーとなっているほか、車いす学生に対しては履修科目の教室を配慮するなどできるだけ負担を軽減させるようにしている。また学生課には支援員も配置しており、教職員が一丸となってサポート体制を整えている。 (根拠)「障がい学生支援規程」	継続して行う	学生生活委員会

	(12)長期履修生を受入れる体制を整えている。	①沖縄キリスト教短期大学長期履修生規程を整備している。②なし (根拠)①沖縄キリスト教短期大学長期履修生規程	継続して行う。	教務委員会、 短大教授会
	(13)学生の社会的活動(地域活動、地域貢献、ボランティア活動等)に対して積極的に評価している。	【保育科】①地域子育て支援実習で地域貢献活動をし、単位として認定し、活動を評価している。 ②なし 【英語科】1ボランティア科目があり、優秀な学生は表彰している2なし (根拠)【保育科】本学HP、Student Handbook、シラバス 【英語科】シラバス		
基準Ⅱ-B-4 進路支援を行っている。	(1)就職支援のための教職員の組織を整備し、活動している。	①キャリア支援委員会を設置している。また、就職支援を担当するキャリア支援課にはキャリアコンサルタント資格を保持している職員が常駐して、学生対応にあっている。②なし (根拠)キャリア支援委員会規程、議事録	継続して行う。	キャリア支援委員会
	(2)就職支援のための施設を整備し、学生の就職支援を行っている。	①キャリア支援課が模擬面接練習室を設置し、就活にとどまらないキャリア教育を支援しているほか、求人票が閲覧しやすいように就職情報コーナーを設けている。その他図書館にも就職資格関連コーナーを設けて学生を支援している。②なし (根拠)キャリア支援委員会議事録、学生便覧	継続して行う。	キャリア支援委員会
	(3)就職のための資格取得、就職試験対策等の支援を行っている。	英語技能検定や公務員試験・SPI試験対策講座などを毎年実施している。また、個別での面接対策も随時行っている他、琉球大学の学生をボランティア講師として招いた数学基礎講座(Scafe)を開き、就職における筆記試験対策を行っている。 (根拠)キャリア支援委員会議事録、資格取得奨励金給付規程	継続して行う。	キャリア支援委員会
	(4)学科・専攻課程ごとに卒業時の就職状況を分析・検討し、その結果を学生の就職支援に活用している。	①就職内定状況を参考にしながら就職支援に活用している。特に、保育科の就職先の業種別では、保育士、幼稚園教諭に内定する率が、43%(39人)、37%(34人)、合わせると80.2%に上り資格免許に関連した専門職に就職している。また、英語科では、本学学生の強みである英語とコミュニケーション力を活かした職種、ホテルや観光業、インバウンドのお客を扱うサービス業に就職している。 ②就職状況の分析が不十分。 (根拠)HP就職状況、進路状況・産業別進路状況報告	卒業時の進路(就職率)状況データの経年比較分析を行い、効果の測定ができたか2020年度からキャリア支援委員会で検討を開始する。	キャリア支援委員会
	(5)進学、留学に対する支援を行っている。	【学生課】①新入生オリエンテーションや進路セミナーなどで説明、案内している他、進学を希望する学生に対しては窓口での相談も受け付けている②なし 【交流セ】①留学に対する支援:経済的な側面では、「正規留学派遣奨学金」「在学留学特別奨学金」といった留学奨学金制度を整備している。また、就職・進学など、将来を見据えた留学プラン構築を目的として、留学カウンセリングや、留学セミナー等のイベントを定期的にも実施し、学生が「意義ある留学」を実現できるよう、指導・助言を行っている。 ②修業年限(2年)の関係で、四年制大学の学生よりも、海外留学の機会が限られている傾向にある。 (根拠)【学生課】「学生便覧」、「新入生オリエンテーション」時の説明資料 【交流セ】①=HP情報の公表	【学生課】継続して行う 【交流セ】海外研修について積極的に案内する。また、学内外問わず国際交流の機会を提供し、短大生が参加しやすい環境を整える。	【学生課】学生生活委員会 【交流セ】国際平和文化交流委員会

<p>基準Ⅱ 自己点検委員会 評価</p>	<p>短期大学士の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）は、明確に示している（基準Ⅱ-A-1）。社会的・国際的に通用性（3）については、議論が必要であるが、今後とも学科会議、学科ワークショップ、短大FDワークショップなどを通し、カリキュラムの実態やほかのポリシーとの整合性に鑑みて、定期的な点検を続けていく。</p> <p>教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）は、明確に示している（基準Ⅱ-A-2）。短期大学設置基準上の関連条項にのっとり、各学科の学習成果に応じた授業科目を編成し、学生が学習成果を獲得できるよう、教育課程の体系化を図った上で、学生便覧等にカリキュラムマップを掲載するなど十分周知を行っている。そのほか、単位の実質化と成績評価についても、学則に基づいてシラバスに評価方法や評価基準を設定・周知している。シラバスについては「ガイドライン」にもとづいてシラバスを作成し、そのうち第三者チェックを行うことで内容の適切性を保証している。カリキュラムの定期的見直しにあたっては、カリキュラムツリーやカリキュラムマップをつくって、「授業評価アンケート」「受講者数／閉講クラス」「成績分布状況」などのデータを参照しながら、「学習成果検証報告書」を作成している。</p> <p>幅広く深い教養を培うための教育課程の編成（基準Ⅱ-A-3）については、2019年度から総合教育系が教養教育委員会へと再編されたことをうけて、教養教育と学科のディプロマポリシーを統合したり、各学科のカリキュラムマップとツリー、修学ポートフォリオの達成度スコア表に教養教育科目を組み入れたりすることで関連性をさらに明確化していく必要がある。教養教育の効果の測定・評価については、准学校心理士資格（保育科）を導入するほか、幼保英語、ワード文書、表計算に関する資格試験を学内で実施していく予定である。</p> <p>両学科の教育課程は、職業又は実際生活に必要な能力を育成するよう編成し、職業教育を実施しているといえる（基準Ⅱ-A-4）。キャリア支援課においても「キャリアガイダンス」や「進路セミナー」などのイベントを通して学科の職業教育を組織的にバックアップしており、キャリア支援委員会、教授会などを通して結果データを定期的に測定・評価している。また職業教育の一環として、保育科では2020年度から「フレッシュマンセミナー」をスタートさせることにしている。</p> <p>短大では、入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）を明確に示している（基準Ⅱ-A-5）。アドミッションポリシーは英語科、保育科ともに学習成果と対応している。来年度からは、「総合型選抜」「学校推薦型」「一般選抜」などの高大接続改革によって導入された多様な選抜について、それぞれ選考基準を設定し、公正かつ適正に実施していかなくてはならない。また、今後は、入試説明会や高校訪問のときなどに、入学者受入れの方針についての高等学校関係者の意見を聴取することで、定期的な点検につなげていきたい。</p> <p>短期大学及び学科・専攻課程の学習成果は明確であり（基準Ⅱ-A-6）、両学科とも、提供科目と具体的に結び付けられている。学習成果は一定期間で取得可能であり、測定可能である。学習成果の獲得状況を量的・質的データを用いて測定する具体的な仕組み（基準Ⅱ-A-7）としては「学習成果検証報告書」があり、「受講生数推移データ」、「授業評価アンケート」、「受講者数／閉講クラス」、「成績分布状況」「TOEIC IPテスト」（英語科）、「学習成果に関する自己評価」（保育科）などの集計結果をもとに分析・検証が行われている。学生の卒業後評価への取り組み（基準Ⅱ-A-8）としては、3年に1度、卒業生の就職先の企業・事業所を対象にアンケートを実施している。ただし、データの分析と活用については、現時点でまだ十分ではない。</p>
---------------------------	--

基準Ⅲ. 教育資源と財的資源

教育目標を達成するために教育資源(人的資源、物的資源、技術的資源)及び財的資源を効果的に活用していることを明確に示す。
 教育資源と財的資源の自己点検・評価を実施し、短期大学の向上・充実のための計画など点検結果について明確に示す。
 短期大学は、経営指標に基づく実態を把握し、財務上の安定を確保するように経営計画を策定し、管理していることを明確に示す。

短期大学は、教育資源(人的資源、物的資源、技術的資源)と財的資源を有効的に活用して、教育の効果を高めなければならない。
 短期大学の経営においては、理事長や学長の姿勢や責任体制が重要であることは当然であるが、教職員においても使命感を持って職務を全うしなければ、教育の効果を高めることはできない。優秀な教職員を確保し、人材育成を図りながら、安定的に運営することが重要である。それゆえ、短期大学の構成員は人的資源ととらえるべきである。健全な経営を推進するためには、経営者と教職員の協力体制とともに人的資源の資質向上が不可欠である。
 施設設備に関して短期大学が最も取り組むべきことは、安全性の確保である。法令等に規定される通常の施設設備はもとより、非常時の学生の安全の確保や、情報伝達的手段に重点を置いた物的資源や技術的資源の整備が重要である。
 短期大学の財的資源には、学生生徒等納付金、公的補助金、寄付金、事業収益、資産運用収益、その他の外部資金の受入れなどがある。財的資源は、目的事業たる教育研究の遂行のために使用されるものであり、支出に当たっては、所定の手続きと意思決定機関による決定が必要である。短期大学は、教育資源と財的資源の有効な活用に加えて、学校教育法や私立学校法、中央教育審議会の答申等を踏まえた項目や、大学教育に関係する諸団体の客観的・数量的指標等を参考に自ら経営分析し、経営の健全化を図るために教育研究の活性化や経営改善への取り組みを自己点検・評価に取り入れなければならない。

<A 人的資源>

短期大学は、有能な教職員(人的資源)を雇用して、学習成果を獲得するための教育課程及び教育プログラムを構築し、教育の実践においては量的・質的データを基に学習成果を分析・評価し、恒常的かつ系統的な自己点検・評価を行うとともに、三つの方針を見直し整備することが求められる。
 教職員は、学習成果に照らした教育実践のために、PDCAサイクルによって、自ら日常的に点検・評価し、改善し、専門的人材として、たゆまぬ研鑽を積まなければならない。
 そのために、短期大学は、組織的なFD・SD活動を推進し、時代の変化に対応できるよう教職員の資質、教育能力、専門的能力の向上を図らなければならない。

区分	留意点	(Do, Check) ①実施状況・②課題 実施の根拠(エビデンス)	[Act] 改善に向けての取り組み	検討する 委員会等の 名称
基準Ⅲ-A-1 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて教員組織を整備している。	(1) 短期大学及び学科・専攻課程の教員組織を編制している。	教員組織に関しては短期大学設置基準第20条に則り編成している。 ②なし。 (根拠)HP情報の公表		
	(2) 短期大学及び学科・専攻課程の専任教員は短期大学設置基準に定める教員数を充足している。	教員数に関しては短期大学設置基準第22条を満たしている旨HPで公表している。 ②なし。 (根拠)HP情報の公表	継続して行う。	
	(3) 専任教員の職位は真正な学位、教育実績、研究業績、制作物発表、その他の経歴等、短期大学設置基準の規定を充足しており、それを公表している。	本学で定めた採用基準、昇任基準に則って職位を定めている。毎年HPの教員一覧内に研究実績等を更新して公表している。 (根拠)HP教員一覧、沖縄キリスト教学院教員資格審査基準	継続して行う	
	(4) 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて専任教員と非常勤教員(兼任・兼担)を配置している。	①教育課程編成・実施の方針に基づいた教員配置をしている。 ②なし (根拠)学科会議議事録、(教務委員会議事録)		
	(5) 非常勤教員の採用は、学位、研究業績、その他の経歴等、短期大学設置基準の規定を遵守している。	短期大学設置基準の規定に基づいて採用候補者の履歴書や研究業績、その他経歴等を学科会議で確認、検討し、教務委員会、教授会を経て理事長による決済手続きを行っている。 (根拠)採用稟議書	教学マネジメント委員会において教育課程・編成の流れの確認を行う	
	(6) 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて補助教員等を配置している。	①保育科科目「子どもの食と栄養」内調理実習時に補助教員を配置している。 ②なし (根拠)		
	(7) 教員の採用、昇任はその就業規則、選考規程等に基づいて行っている。	①教員の採用、昇任はその就業規則、選考規程等に基づいて行っている。 ②なし。 (根拠)教員採用に関する手順、教員資格審査基準に関する内規		短大教員人事委員会、理事会

<p>基準Ⅲ-A-2 専任教員は、学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて教育研究活動を行っている。</p>	<p>(1) 専任教員の研究活動(論文発表、学会活動、国際会議出席等、その他)は学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて成果をあげている。</p>	<p>学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて専任教員は各々の専門領域の学会に所属し研究活動の充実に努めており、各教員の研究業績については、本学ホームページの教員紹介に掲載し、外部への公開がなされている。</p> <p>(根拠) 沖縄キリスト教学院HP、教育職員の個人研究費に関する規程、紀要</p>	<p>研究計画書及び研究報告書の様式の見直しを行う</p>	
	<p>(2) 専任教員個々人の研究活動の状況を公開している。</p>	<p>① 本学HP内に教員一覧ページを設け、それぞれの教員の研究活動状況を毎年更新している。 ② なし</p> <p>(根拠) 沖縄キリスト教学院HP</p>	<p>継続して行う</p>	<p>企画推進課</p>
	<p>(3) 専任教員は、科学研究費補助金、外部研究費等を獲得している。</p>	<p>① 2016年から3年間公益信託宇流麻学術研究助成基金を獲得しており、また科研費においても研究分担者として外部資金を獲得している。 ② 科研費の研究代表者としての外部資金獲得</p> <p>(根拠) 沖縄キリスト教学院HP、各種採用決定通知書</p>	<p>教授会で担当事務職員から科研費の案内を行い、資料を配布するなどして応募を促している</p>	
	<p>(4) 専任教員の研究活動に関する規程を整備している。</p>	<p>本学における競争的資金を中心とした公募型の研究資金の取扱いについて、適正な運営・管理および不正防止に関する基本方針を定めている。 ② 上記規程は研究活動のみに関する規程ではない</p> <p>(根拠) 教育職員の個人研究費に関する規程、学校法人沖縄キリスト教学院公的研究費の適正な運営・管理及び不正行為への対応等に関する規程、沖縄キリスト教学院研究倫理規程</p>	<p>研究活動に関する規程の制定</p>	
	<p>(5) 専任教員の研究倫理を遵守するための取り組みを定期的に行っている。</p>	<p>① 研究倫理に関する規程の中に「公的研究費の運営・管理に関わる全ての構成員は、原則3年ごとに実施される研究倫理教育を受講しなければならない。」としており、教職員はeラーニングでの受講を行っている</p> <p>(根拠) 沖縄キリスト教学院HP、学校法人沖縄キリスト教学院公的研究費の適正な運営・管理及び不正行為への対応等に関する規程、沖縄キリスト教学院研究倫理規程</p>	<p>継続して行う</p>	<p>短大教授会</p>
	<p>(6) 専任教員の研究成果を発表する機会(研究紀要の発行等)を確保している。</p>	<p>① 編集委員会を組織し、年に1、2回紀要を出版している。 ② 研究活動の活性化に取り組み</p> <p>(根拠) キリスト教短期大学紀要、沖縄キリスト教短期大学保育科論集</p>	<p>紀要や論集の量と質の向上に向けて今後とも努力する。</p>	<p>紀要編集委員会</p>
	<p>(7) 専任教員が研究を行う研究室を整備している。</p>	<p>① 各教員に研究室を割り当てている。 ② なし。</p> <p>(根拠)</p>	<p>継続して行う。</p>	
	<p>(8) 専任教員の研究、研修等を行う時間を確保している。</p>	<p>① 専任教員の1週間に担当する授業責任時間数を14時間(7コマ)と規定し、週に1度授業を担当しない研究日を設けるなど、研究、研修等を行う時間を確保している。 ② なし。</p> <p>(根拠) 教育職員の勤務に関する規程</p>	<p>継続して行う。</p>	
	<p>(9) 専任教員の留学、海外派遣、国際会議出席等に関する規程を整備している。</p>	<p>① 専任教員の留学、海外派遣、国際会議出席等に関する規程を整備している。 ② なし。</p> <p>(根拠) 沖縄キリスト教学院研究員規程、学校法人沖縄キリスト教学院専任教員職員の学位・学術研究等による休職に関する規程、旅費・交通費規程</p>		
	<p>(10) FD活動に関する規程を整備し、適切に実施している。 ① 教員は、FD活動を通して授業・教育方法の改善を行っている。</p>	<p>① ティーチング・アワードの選定や授業参観、また学生FDの実施で学生の声に耳を傾けるなどあらゆる形で授業・教育方法の改善に向けて取り組んでいる。 ② なし。</p> <p>(根拠) FD委員会規程</p>	<p>継続して行う</p>	<p>FD委員会</p>

	(11)専任教員は、学生の学習成果の獲得が向上するよう学内の関係部署と連携している。	<p>【教務課】①教育課程編成及びカリキュラム改善に活用する「学習成果検証報告書」作成や、教務委員会及び教学マネジメント委員会における協議及び審議の際に、教務課と連携している。</p> <p>②各学科、教務課、IRが共通の課題について合同で検討する委員会がない。</p> <p>【保育科】①各部署と連携し授業評価アンケートを実施し、各教員が結果を確認し、フィードバックを行っている。</p> <p>②なし</p> <p>【英語科】1学習支援センターと文法の授業と連携している2なし。また、授業についていけない学生に対しても学習支援センターでサポートしてもらっている。</p> <p>(根拠)【保育科】HP情報の公開、フィードバックの学内掲示 【英語科】学習支援センターと協力している。教授会での件数報告。</p>	【教務課】2019～2020年度にアンケート見直しワーキンググループを立ち上げ、各学科、教務課、IRで適切な調査内容等になるよう検討する。	【教務課】教務委員会、教学マネジメント委員会
基準Ⅲ-A-3 学生の学習成果の獲得が向上するよう事務組織を整備している。	(1)事務組織の責任体制が明確である。	<p>①組織規程及び事務分掌規程に基づき事務組織の運営がなされており、責任体制が明確である。</p> <p>②なし。</p> <p>(根拠)組織規程、事務分掌規程</p>		
	(2)事務職員は、事務をつかさどる専門的な職能を有している。	<p>①事務職員は採用時に人事委員会との面接を行っている他、一般教養などの筆記試験を実施し、職能を有していることを確認している。さらに、配置された部署において必要なスキルを身につけるため外部研修等へ派遣している。</p> <p>②なし。</p> <p>(根拠)</p>	継続して行う。	
	(3)事務職員の能力や適性を十分に発揮できる環境を整えている。	<p>①人事委員会の決定により事務職員の能力や適性を考慮し、配置している。年に1度事務局長によりヒアリングを実施しており、能力を発揮できる環境を整えている。</p> <p>②なし。</p> <p>(根拠)</p>		
	(4)事務関係諸規程を整備している。	<p>①事務関係諸規程を整備している。</p> <p>②なし。</p> <p>(根拠)組織規程、事務分掌規程</p>		
	(5)事務部署に事務室、情報機器、備品等を整備している。	<p>①各個人にパソコン・机等を配置し、事務部署に事務室、情報機器、備品等を整備している。</p> <p>(根拠)</p>	継続して行う。	
	(6)防災対策、情報セキュリティ対策を講じている。	<p>【学支】①年1回、SDの一環として情報セキュリティセミナーを開催している。</p> <p>②なし</p> <p>【総務】①危機管理対応マニュアル及び情報セキュリティ管理規程に基づき対策を講じている。防災対策に関しては、年に1度教職員及び学生参加の防災訓練を実施している。②なし。</p> <p>(根拠) 【学支】情報セキュリティ委員会議事録 【総務】危機管理対応マニュアル、情報セキュリティ管理規程</p>	継続して行う。	情報セキュリティ委員会
	(7)SD活動に関する規程を整備し、適切に実施している。 ①事務職員(専門的職員等を含む)は、SD活動を通じて職務を充実させ、教育研究活動等の支援を図っている。	<p>毎年SD実施方針を大学運営協議会にて策定し、適切に実施している。事務職員には外部の研修や講習会に参加を促し、SD活動を通じて職務を充実させ、教育研究活動等の支援を図っている。</p> <p>②なし。</p> <p>(根拠)SDIに関する実施方針</p>	継続して行う。	大学運営協議会
	(8)日常的に業務の見直しや事務処理の点検・評価を行い、改善している。	<p>①各部署において日常的に業務の見直しや事務処理の点検・評価を行い、業務量が増加する中、業務遂行するよう、工夫し改善している。また、他部署との連携強化においては課長会で調整し、改善を図っている。</p> <p>②業務量増加の中、削減できる業務を模索しているが、困難な状況である。</p> <p>(根拠)会議でのIpadを導入し、配布資料を削減</p>		

	(9)事務職員は、学生の学習成果の獲得が向上するよう教員や関係部署と連携している。	<p>【教務課】①2019年度より教務課にカリキュラム・コーディネーターを配置し、関係部署と調整している。 ②学習成果獲得向上に向けた教職協働の作業が必要</p> <p>【キャリア課】①学習成果を効果的に獲得できるよう学科と連携している。②他部署との連携</p> <p>【支援課】①講義中における情報機器のトラブル等に迅速に対応できるよう、連絡体制を整えている。 ②各部署との意見交換が必要である。</p> <p>【図書課】学科と連携し、必要資料の購入や授業の成果を発表するビブリオバトル、英語科学生向けの文献検索セミナー、保育科学生向けの絵本読み聞かせ講座を開催。</p> <p>(根拠)【教務課】沖縄キリスト教学院大学及び沖縄キリスト教短期大学学務マネジメント委員会規程、沖縄キリスト教学院大学及び沖縄キリスト教短期大学教務委員会規程、カリキュラム・コーディネーターについて(申し合わせ) 【キャリア課】キャリア支援委員会規程、議事録 【支援課】なし 【図書課】告知、図書館委員会議事録、教授会議事録、大学運営協議会議事録、課長会議事録</p>	<p>【教務課】DPで示した資質能力の適切性の検証に向けたカリキュラム・ツリー及びマップの整備について、2019～2020年度に教職協働(各学科と教務課)で実施する予定</p> <p>【キャリア課】教員とキャリア支援課職員が講師となり授業運営や教コマを職員が担当するなど、教職協働に取り組んでいる。継続して行う。</p> <p>【支援課】関係部署との具体的な連携の申し合わせについて検討する。</p> <p>【図書課】学生の学習成果のレベル向上のために何が必要で何をなすべきか、引き続き教職員や関係部署と連携する。</p>	<p>【教務課】教務委員会、学務マネジメント委員会 【キャリア課】キャリア支援委員会 【支援課】情報システム委員会 【図書課】図書館委員会 教授会 大学運営協議会 課長会</p>
<p>基準Ⅲ-A-4 労働基準法等の労働関係法令を遵守し、人事・労務管理を適切に行っている。</p>	<p>(1)教職員の就業に関する諸規程を整備している。</p> <p>(2)教職員の就業に関する諸規程を教職員に周知している。</p> <p>(3)教職員の就業を諸規程に基づいて適正に管理している。</p>	<p>①就業規則を整備している。 ②なし。</p> <p>(根拠)就業規則</p> <p>①諸規程はネットワーク内で自由に閲覧可能にしている。改正した場合は都度、配信している。 ②なし。</p> <p>(根拠)desknets、規程集</p> <p>①教職員の就業を諸規程に基づいて適正に管理している。 ②教員の出勤について押印のみであり、時間管理が必要。</p> <p>(根拠)出勤簿、年休届</p>	<p>教員の時間割管理実施について引き続き検討を行う。</p>	

B 物的資源

短期大学は、教育課程と学生支援の充実のために、短期大学設置基準に規定される校地、校舎、施設設備、その他の物的資源を整備・活用しなければならない。物的資源の整備(取得/処分)・活用は、短期大学の設置者の事業計画に含まれ、計画的に実施しなければならない。

区分	留意点	〔Do, Check〕 ①実施状況・②課題 実施の根拠(エビデンス)	〔Act〕 改善に向けての取り組み	検討する 委員会等の 名称
<p>基準Ⅲ-B-1 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて校地、校舎、施設設備、その他の物的資源を整備、活用している。</p>	<p>(1)校地の面積は短期大学設置基準の規定を充足している。</p> <p>(2)適切な面積の運動場を有している。</p> <p>(3)校舎の面積は短期大学設置基準の規定を充足している。</p> <p>(4)校地と校舎は障がい者に対応している。</p>	<p>①校地の面積は短期大学設置基準の規定第30条を充足している。 ②なし。</p> <p>(根拠)</p> <p>本学は運動場を有していないが、短期大学設置基準第27条の2に則っている。</p> <p>(根拠)</p> <p>①校舎の面積は短期大学設置基準の規定第31条を充足している。 ②なし。</p> <p>(根拠)</p> <p>①校地及び校舎には、手すり、視覚障がい者のための点字タイル、車いす用のスロープ、障害者トイレ等が整備されており、また学院内のエレベータには車いす用の操作パネルも設けるなど障がい者に対応している。 ②なし。</p> <p>(根拠)</p>		

	(5) 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて授業を行う講義室、演習室、実験・実習室を用意している。	① 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて授業を行う講義室、演習室、実験・実習室を用意している。 ② なし。 (根拠)			
	(6) 通信による教育を行う学科・専攻課程を開設している場合には、添削等による指導、印刷教材等の保管・発送のための施設が整備されている。	(根拠)			
	(7) 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて授業を行うための機器・備品を整備している。	① 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて授業を行うための機器・備品を整備している。 ② なし。 (根拠)			
	(8) 適切な面積の図書館又は学習資源センター等を有している。	① 適切な面積の図書館を有している。 ② なし。 (根拠) 自己点検・評価シート			
	(9) 図書館又は学習資源センター等の蔵書数、学術雑誌数、AV資料数及び座席数等が適切である。 ① 購入図書選定システムや廃棄システムが確立している。 ② 図書館又は学習資源センター等に参考図書、関連図書を整備している。	① 各学科や他部署に関連書籍の選定を依頼。参考図書も継続的に購入。除籍は定期的に行っている。② なし (根拠) 図書委員会議事録、教授会議事録	書架の狭域化を防ぐためにも、引き続き、除籍対象となる資料の選定を関連する学科や他部署に協力を依頼し、整備する。	図書委員会 学科会議 教授会	
	(10) 適切な面積の体育館を有している。	① 適切な面積の体育館を有している。 ② なし。 (根拠)			
基準Ⅲ-B-2 施設設備の維持管理を適切に行っている。	(1) 固定資産管理規程、消耗品及び貯蔵品管理規程等を、財務諸規程に含め整備している。	① 経理規程の中に固定資産、物品に関する規程を盛り込んでいる。 ② なし。 (根拠) 経理規程、経理規程細則			
	(2) 諸規程に従い施設設備、物品(消耗品、貯蔵品等)を維持管理している。	① 固定資産台帳を作成し、適正に維持管理している。 ② なし。 (根拠) 経理規程、固定資産台帳	継続して行う。		
	(3) 火災・地震対策、防犯対策のための諸規則を整備している。	① 防火管理規程、消防計画規程、危機管理規程、危機管理対応マニュアルを整備している。 ② 防火管理規程は最終更新日が1977年2月2日のため、見直す必要がある。 (根拠) 防火管理規程、消防計画規程	根拠規程2つの統合整備を行う。		
	(4) 火災・地震対策、防犯対策のための定期的な点検・訓練を行っている。	① 年に2回の割合で点検、年に1回の割合で訓練を実施し、定期的に行っている。 ② 授業中の避難訓練ができていない。 (根拠) 消防用設備等点検結果報告書、消火訓練実施通知・報告書	より実践的な訓練とするため、授業中の訓練の検討又はそれに代わる多くの学生が参加する訓練の検討を行う。		
	(5) コンピュータシステムのセキュリティ対策を行っている。	① 全てのサーバ機器、及びパソコンにウイルス対策ソフトを導入しており、管理システムでは各機器の動作状況をリアルタイムで監視している。 ② なし (根拠) 現物確認	継続して行う。		情報システム委員会
	(6) 省エネルギー・省資源対策、その他地球環境保全の配慮がなされている。	① 機器更新時に省エネルギー型のものに変更したり、学生への省エネルギーを呼び掛ける等の掲示を行っている。また、一部の会議においてはiPad等の活用を始めペーパーレス化を実現している。 (根拠)	継続して行う。		

C 技術的資源をはじめとするその他の教育資源

技術的資源をはじめとするその他の教育資源は、教育課程と学生支援を充実させるために十分なものでなければならない。技術的資源をはじめとするその他の教育資源の整備・活用は、短期大学の設置者の事業計画に含まれ、計画的に実施しなければならない。

短期大学は、学生の学習、教育研究に対する学内外のネットワーク及び運営体制のニーズに合わせた技術的資源を有し、その利用については目的・行動指針を定めるとともに、自己点検・評価を通じて活用しなければならない。

区分	留意点	(Do, Check) ①実施状況・②課題 実施の根拠(エビデンス)	[Act] 改善に向けての取り組み	検討する 委員会等の 名称
基準Ⅲ-C-1 短期大学は、学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて学習成果を獲得させるために技術的資源を整備している。	(1) 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて技術サービス、専門的な支援、施設設備の向上・充実を図っている。	【総務】①学科の教育課程編成・実施の方針に基づいて施設設備を導入する際に予算等を協議し、向上・充実を図っている。 ②なし。 (根拠)【総務】予算申請書類、稟議書	継続して行う。	情報システム委員会
	(2) 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて情報技術の向上に関するトレーニングを学生及び教職員に提供している。	1年次(全科)の必修科目として「コンピュータリテラシー」を開講している。教員については、ICTの活用方法や授業改善手法の習得を目的とした「ICT教育研修会」を実施している。 (根拠)シラバス、研修会実施報告書	継続して行う。	情報システム委員会
	(3) 技術的資源と設備の両面において計画的に維持、整備し、適切な状態を保持している。	【学支】①必要な教室にプロジェクター等のICT機器を整備しており、定期的な点検、及びメンテナンスを行っている。②なし 【総務】①技術的資源と設備の両面において維持、整備し、適切な状態を保持している。 ②計画的にという部分で、財政面の制約から後ろ倒しにしている設備が若干ある。 (根拠)【学支】液晶プロジェクター点検報告書	【学支】継続して行う。 【総務】厳しい財政事情にあっても計画的な整備をするべく、計画を立てる。	【学支】情報システム委員会 【総務】法人事務連絡会議
	(4) 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて技術的資源の分配を常に見直し、活用している。	【学支】①同時通訳者養成を核としたコンピュータ教室の配置、及びソフトウェアの選定を行っている。 また、インターネットを通じて学生への課題提示や回収が行えるよう、本学独自の授業支援システム(通称:iLAS)を構築している。 技術的資源として、専門部署を設置している。 ②既存のネットワーク機器等が老朽化しているため、学内ネットワークの見直しも含めたりブレイス計画の策定が必要。 (根拠)情報システム委員会議事録	【学支】学内ネットワークの見直しについては、2020年度中に委員会において審議を行う。	情報システム委員会
	(5) 教職員が学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて授業や学校運営に活用できるよう、学内のコンピュータ整備を行っている。	①全教職員にPCを配布している。 ②なし (根拠)パソコン管理簿	継続して行う。	情報システム委員会
	(6) 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて、学生の学習支援のために必要な学内LANを整備している。	①学内全てのパソコンがインターネットに接続でき、それに加えて無線LAN環境も整備している。 ②なし (根拠)学内ネットワーク構成図	継続して行う。	情報システム委員会
	(7) 教員は、新しい情報技術などを活用して、効果的な授業を行っている。	【保育科】①学内情報共有システムiLasの活用、パワーポイントや視聴覚教材を活用し、効果的な授業を実施している。 ②なし 【英語科】1学内情報共有システムiLasなどを活用している2なし (根拠)【保育科】講義内でのiPadやパソコンの活用。 【英語科】ICTを活用している(例)iLAS	継続して行う。	

(8) 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて授業を行うコンピュータ教室、マルチメディア教室、CALL教室等の特別教室を整備している。	①コンピュータ教室PC 42台、CALL教室PC 90台、図書館内フリーPC 12台 ②なし	継続して行う。	情報システム委員会
	(根拠) 現地確認		

D 財的資源

財的資源は、教育課程と学生支援を充実させ、教育機関としての向上に十分なものでなければならない。財的資源の適切な配分によって、教育課程と学生支援を開発し、整備し、その向上が図られる。短期大学は、経営判断指標に基づき実態を把握し、財務上の安定を確保するように経営計画を策定し、管理しなければならない。財的資源の管理は、短期大学の設置者の事業計画に含まれ、計画的に実施しなければならない。

区分	留意点	(Do, Check) ①実施状況・②課題 実施の根拠(エビデンス)	[Act] 改善に向けての取り組み	検討する 委員会等の 名称
基準Ⅲ-D-1 財的資源を適切に管理している。	(1) 計算書類等に基づき、財的資源を把握し、分析している。 ①資金収支及び事業活動収支は、過去3年間にわたり均衡している。 ②事業活動収支の収入超過又は支出超過の状況について、その理由を把握している。 ③貸借対照表の状況が健全に推移している。 ④短期大学の財政と学校法人全体の財政の関係を把握している。 ⑤短期大学の存続を可能とする財政を維持している。 ⑥退職給与引当金等を目的どおりに引き当てている。 ⑦資産運用規程を整備するなど、資産運用が適切である。 ⑧教育研究経費は経常収入の20%程度を超えている。 ⑨教育研究用の施設設備及び学習資源(図書等)についての資金配分が適切である。 ⑩公認会計士の監査意見への対応は適切である。 ⑪寄付金の募集及び学校債の発行は適正である。 ⑫入学定員充足率、収容定員充足率が妥当な水準である。 ⑬収容定員充足率に相応した財務体質を維持している。	①入学者減少等で収入が落ち込み、事業活動収支は支出超過となる見込み ②収支均衡に向けた取り組み	収支均衡に向けた全学的な取り組みを検討する。	法人事務連絡会、理事会
		(根拠) 予算書、決算書(法人事務連絡会資料、理事会資料)		
	(2) 財的資源を毎年度適切に管理している。 ①学校法人及び短期大学は、中・長期計画に基づいた毎年度の事業計画と予算を、関係部門の意向を集約し、適切な時期に決定している。 ②決定した事業計画と予算を速やかに関係部門に指示している。 ③年度予算を適正に執行している。 ④日常的な出納業務を円滑に実施し、経理責任者を経て理事長に報告している。 ⑤資産及び資金(有価証券を含む)の管理と運用は、資産等の管理台帳、資金出納簿等に適切な会計処理に基づいて記録し、安全かつ適正に管理している。 ⑥月次試算表を毎月適時に作成し、経理責任者を経て理事長に報告している。	①中長期的な財政計画に基づき、各年度の事業計画を策定し、財的資源は毎年度適切に管理している。 ②なし	継続して行う。	法人事務連絡会、理事会
		(根拠) 会計帳簿、決算書、事業計画書、次年度予算書、補正予算書(理事会資料)		

基準Ⅲ-D-2 日本私立学校振興・共済事業団の経営判断指標等に基づき実態を把握し、財政上の安定を確保するよう計画を策定し、管理している。	(1) 短期大学の将来像が明確になっている。	①現在第4次中長期五ヵ年計画の3年目である。 (根拠) 沖繩キリスト教学院第4次中長期五ヵ年計画	2020年度はここまでの実績の検証および第5次中長期計画に向けたビジョンの制定に取り組み始める	
	(2) 短期大学の強み・弱みなどの客観的な環境分析を行っている。	客観的な環境分析は行っていない。 (根拠)	外部評価等を含めた大学の客観的な環境分析を行う準備を始める	
	(3) 経営実態、財政状況に基づいて、経営(改善)計画を策定している。 ①学生募集対策と学納金計画が明確である。 ②人事計画が適切である。 ③施設設備の将来計画が明瞭である。 ④外部資金の獲得、遊休資産の処分等の計画を持っている。	関係部署で議論は進めているが、計画の策定までには至っていない。	計画の策定に向けて取り組む	
	(4) 短期大学全体及び学科・専攻課程ごとに適切な定員管理とそれに見合う経費(人件費、施設設備費)のバランスがとれている。	①人件費依存率が高く、バランスを崩しつつある。 (根拠)	大学全体で定員管理等見直しを進める	
	(5) 学内に対する経営情報の公開と危機意識の共有ができていない。	①決算報告、財務状況説明会を毎年SDとして実施しており、公開と危機意識の共有ができていない。 ②危機意識は共有しているものの対策についての共有も必要。 (根拠) SD資料		

基準Ⅲ 自己点検委員会 評価	<p>人的資源については、概ね基準を満たしていると判断できるが、専任教員の研究活動が教育課程編成に基づくものであることを明確にするための工夫が必要である。また、外部資金の獲得に対する取り組みも弱く、教員の意識向上への取り組みが望まれる。FDについては、教学マネジメント指針に基づく階層的な取り組みについて検討する必要がある。学生の学習成果獲得への各部署連携については、各部署が持つ個々のデータの共有や一元管理について検討が必要である。</p> <p>物的資源、技術的資源については、概ね基準を満たしていると判断できるが、省エネルギー対策については、電力消費量の多い旧型のエアコンや電灯のLED化について更新計画を策定する必要がある。また、全教職員に配布しているPCについても、計画的に更新し、劣化によるトラブルを未然に防ぐ等の検討が必要である。</p> <p>財的資源については、2019年度においては、基本金組入後収支差額が赤字となっており、経営改善に向けた具体的計画を策定する必要がある。</p>
---------------------------------	--

基準Ⅳ. リーダーシップとガバナンス

短期大学の教育の使命を果たすために、積極的にリーダーシップが発揮され、ガバナンスが有効に機能していることを明確に示す。
 理事長を中心とする管理運営組織が、経営責任の視点に立って学習成果を焦点とした短期大学教育の向上・充実を目指していることを明確に示す。
 財務等の情報公開を通じて、社会に対して説明責任を果たし、関係者の理解と協力を得られるよう努めていることを明確に示す。

短期大学が継続的に発展するためには、リーダーシップとガバナンスが極めて重要である。

リーダーシップは、短期大学の継続的な向上・充実を図るために、組織全体を動かす上で最も重要なことである。

ガバナンスは、理事長、学長の意思決定やリーダーシップが短期大学の向上・充実に対して適切に発揮されていることを確認することである。

短期大学における最高意思決定機関は理事会である。理事長は、理事会を通じてリーダーシップを発揮しなければならない。また、教授会は学校教育法において、大学の重要事項を審議し、学長に意見を述べる機関として位置付けられている。学長は、短期大学の各々の規程に従い、教授会を通じてリーダーシップを発揮しなければならない。理事長と学長は、リーダーシップを発揮し、理事会と教授会の責任と役割を明確にし、相互に協力して運営に当たる必要がある。

経営環境が厳しくなる中で、各短期大学は自ら経営改革を図ると同時に経営倫理の見直しを図らなければならない。組織体を経営するに当たっての倫理、「経営倫理」とは経営の効率性・合理性の追求だけでなく、倫理に基づく人間性・社会性とのバランスを取った組織経営を実践していくことであり、無責任な体質を脱却し、責任を明確にした経営システムを確立することである。経営倫理の確立を着実に推進し、定着させることが重要であり、理事長がその責任を果たすべきである。

短期大学は、学生の在学中に経営破たん陥ることがあってはならない。理事会は、その責任を十分に認識し、学習成果を焦点にした恒常的かつ系統的な自己点検・評価を行い、万が一にも破たん状態に陥ると判断する場合には、速やかに学生の募集停止を行い、部門の廃止への準備を進めることも必要である。これら一切の経営に関する計画の見直し整備を図ることはもとより、必要な決断は、リーダーシップの重要な責務である。

短期大学は、質の高い教育を行い、学生を教育して卒業させることが最も重要な使命であり、高い公共性と大きな社会的責任を有している。そのため短期大学は、社会や地域に対して積極的に財務情報・事業計画を公開し、関係者の理解と支援を得るために努力しなければならない。短期大学が、その透明性を確保して積極的な情報公開を進めていくことは、産学連携や地域貢献を図る上でも、寄付金や学校債を募集する上でも有効である。

A 理事長のリーダーシップ

理事長は、建学の精神に基づき、学校法人の公共性を高め、短期大学経営を先導していくリーダーシップと経営責任を果たさなければならない。

理事会は理事長の経営判断や執行を補佐する最高意思決定機関であり、経営の効率性・合理性の追求だけでなく、倫理に基づく人間性・社会性とのバランスが取れた経営を実践し、理事長の経営責任と監事の監査機能の強化により、経営問題の解決やリスク・マネジメント(危機管理)を強化しなければならない。

区分	留意点	(Do, Check) ①実施状況・②課題 実施の根拠(エビデンス)	[Act] 改善に向けての取り組み	検討する 委員会等の 名称
基準Ⅳ-A-1 理事会等の学校法人の管理運営体制が確立している。	(1)理事長は、学校法人の運営全般にリーダーシップを適切に発揮している。 ①理事長は、建学の精神・教育理念、教育目的・目標を理解し、学校法人の発展に寄与できる者である。 ②理事長は、学校法人を代表し、その業務を総理している。 ③理事長は、毎会計年度終了後2月以内に、監事の監査を受け理事会の議決を経た決算及び事業の実績(財産目録、貸借対照表、収支計算書及び事業報告書)を評議員会に報告し、その意見を求めている。	理事長は学校法人沖縄キリスト教学院寄附行為第5条に基づき選任しており、学校法人の運営全般にリーダーシップを発揮している②なし。 (根拠)理事会、評議員会議事録、寄附行為、法人事務連絡会議規程	継続して行う。	
	(2)理事長は、寄附行為の規定に基づいて理事会を開催し、学校法人の意思決定機関として適切に運営している。 ①理事会は、学校法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督している。 ②理事会は、理事長が招集し、議長を務めている。 ③理事会は、認証評価に対する役割を果たし責任を負っている。 ④理事会は、短期大学の発展のために、学内外の必要な情報を収集している。 ⑤理事会は、短期大学の運営に関する法的な責任があることを認識している。 ⑥理事会は、学校法人運営及び短期大学運営に必要な規程を整備している。	①実施できている。 ②なし。 (根拠)寄附行為	継続して行う。	
	(3)理事は、法令及び寄附行為に基づき適切に構成されている。 ①理事は、学校法人の建学の精神を理解し、その法人の健全な経営について学識及び識見を有している。 ②理事は、私立学校法の役員選任の規定に基づき選任されている。 ③寄附行為に学校教育法校長及び教員の欠格事由の規定を準用している。	①理事は、法令及び寄附行為に基づき適切に構成されている。 ②なし。 (根拠)寄附行為	継続して行う。	

B 学長のリーダーシップ

学長は、建学の精神に基づき、教育の質を保証しなければならない。質の保証とは、教育課程と学生サービスに対する学生ニーズの評価、教育目的の設定、教員組織・施設設備・財的資源の配分、そして教育の実践について明確にすることである。また、教育目的・目標の達成のために、学習成果の獲得の質的・量的データを収集・解釈し、適切に教育機能を向上させるために自己点検・評価を行わなければならない。教授会は、教授会規程に基づき、学長(又は規程に定める者)が議長となって法令に定められた事項、その他教育研究に関する重要事項で学長が必要と定めたものについて意見を述べるほか、学長等がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、学長等の求めに応じ、意見を述べる事ができる。学長は、教授会の意見を聴いて、リーダーシップを発揮し、最終的な判断を行わなければならない。

区分	留意点	〔Do, Check〕 実施状況・課題 実施の根拠(エビデンス)	〔Act〕 改善に向けての取り組み	検討する 委員会等の 名称
基準IV-B-1 学習成果を獲得するために教授会等の短期大学の教学運営体制が確立している。	(1)学長は、短期大学の運営全般にリーダーシップを発揮している。 ①学長は、教学運営の最高責任者として、その権限と責任において、教授会の意見を参酌して最終的な判断を行っている。 ②学長は、人格が高潔で、学識が優れ、かつ、大学運営に関し識見を有している。 ③学長は、建学の精神に基づく教育研究を推進し、短期大学の向上・充実に向けて努力している。 ④学長は、学生に対する懲戒(退学、停学及び訓告の処分)の手続を定めている。 ⑤学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督している。学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督している。 ⑥学長は、学長選考規程等に基づき選任され、教学運営の職務遂行に努めている。	①学長は、沖縄キリスト教短期大学及び短期大学学長選任規定に基づき選任され、短期大学の運営全般にリーダーシップを発揮している。 ②なし。 (根拠) 沖縄キリスト教短期大学教授会規程、学則第27条、学生懲戒処分規程、沖縄キリスト教短期大学及び短期大学学長選任規程	継続して行う。	
	(2)学長等は、教授会を学則等の規定に基づいて開催し、短期大学の教育研究上の審議機関として適切に運営している。 ①教授会を審議機関として適切に運営している。 ②学長は、教授会が意見を述べる事項を教授会に周知している。 ③学長は、学生の入学、卒業、課程の修了、学位の授与及び自ら必要と定めた教育研究に関する重要事項について教授会の意見を聴取した上で決定している。 ④学長等は、教授会規程等に基づき教授会を開催し、併設大学と合同で審議する事項がある場合には、その規程を有している。 ⑤教授会の議事録を整備している。 ⑥教授会は、学習成果及び三つの方針に対する認識を共有している。 ⑦学長又は教授会の下に教育上の委員会等を規程等に基づいて設置し適切に運営している。	①学長は短期大学に短期大学部長をおき、部長が議長となって教授会を開催し、短期大学の教育研究上の審議機関として適切に運営している。各種委員会は併設する大学と合同で設置し、適切に運営している。 ②なし。 (根拠) 沖縄キリスト教短期大学教授会規程、沖縄キリスト教短期大学及び短期大学学長選任規程、併設大学と合同で設置し、適切に運営している。	継続して行う。	

C ガバナンス

ガバナンスは、理事長、学長の意思決定やリーダーシップが短期大学の向上・充実に対して適切に発揮されていることを確認することである。理事会の権限と責任が有効に機能しているかを確認する上で、監事と評議員会がその役割を担い、責任を果たす。監事は、業務及び財産の状況について監査を行い、監査報告書を作成して、理事会及び評議員会へ提出しなければならない。評議員会は、予算及び事業計画の諮問、決算報告、事業の実績報告の諮問など、原則として理事長を含め役員に諮問に答えなければならない。

区分	留意点	(Do, Check) ①実施状況・②課題 実施の根拠(エビデンス)	[Act] 改善に向けての取り組み	検討する 委員会等の 名称
基準IV-C-1 監事は寄附行為の規定に基づいて適切に業務を行っている。	(1) 監事は、学校法人の業務及び財産の状況について適宜監査している。	① 監事は、学校法人の業務及び財産の状況について適宜監査している。 ② なし。 (根拠) 監査計画書、監査報告書	継続して行う。	
	(2) 監事は、学校法人の業務又は財産の状況について、理事会及び評議員会に出席して意見を述べている。	① 監事は、学校法人の業務又は財産の状況について、理事会及び評議員会に出席して意見を述べている。 (根拠) 理事会、評議員会議事録	継続して行う。	
	(3) 監事は、学校法人の業務又は財産の状況について、毎会計年度、監査報告書を作成し、当該会計年度終了後2月以内に理事会及び評議員会に提出している。	① 監事は、学校法人の業務又は財産の状況について、毎会計年度、監査報告書を作成し、当該会計年度終了後2月以内に理事会及び評議員会に提出している。 ② なし。 (根拠) 理事会、評議員会議事録	継続して行う。	
基準IV-C-2 評議員会は寄附行為の規定に基づいて開催し、理事長を含め役員に諮問機関として適切に運営している。	(1) 評議員会は、理事の定数の2倍を超える数の評議員をもって、組織している。	① 評議員会は、理事の定数の2倍を超える数の評議員をもって、組織している。 ② なし。 (根拠) 寄附行為、評議員名簿	継続して行う。	
	(2) 評議員会は、私立学校法の評議員会の規定に従い、運営している。	① 評議員会は、私立学校法の評議員会の規定に従い、運営している。 ② なし。 (根拠) 評議員会議事録、寄附行為	継続して行う。	
基準IV-C-3 短期大学は、高い公共性と社会的責任を有しており、積極的に情報を公表・公開して説明責任を果たしている。	(1) 学校教育法施行規則の規定に基づき、教育情報を公表している。	学校教育法施行規則第172条の2第1項に掲げる教育情報の公開をHPで行っている (根拠) HP、情報の公開及び開示規程	継続して行う。	
	(2) 私立学校法の規定に基づき、財務情報を公開している。	① 私立学校法の規定に基づき、毎年度適切に財務情報を公開している。 ② なし (根拠) HP情報の公表、情報の公開及び開示規程	継続して行う。	

基準III 自己点検委員会 評価	<p>理事長、学長ともに寄附行為に基づいて選任され、いずれも建学の理念と目標を深く理解して学院の運営全般にリーダーシップを発揮しており、ガバナンスを保持している。</p> <p>理事長は、定期的にもたれる法人連絡会議において短期大学・大学の実状を把握しており、寄附行為の規定に基づいた理事会を招集し議長を務めている。理事会では決算と事業実績を報告すると共に課題解決の議論を求めた上での決議をもっている。</p> <p>学長は、教育の質を保証するために学生サービスとニーズを把握して適切な教員組織と施設設備・財的資源についての配分を行っている。短期大学教授会と併設されている学院全体の各種委員会と運営協議会を用いて現状を把握した教育実践を行なっている。理事会による最高決議には、適宜、監事と評議員会による確認もなされている。</p>
---------------------	---